

前「第一」ニ於テ述ヘタル如ク凡ソ債務ヲ負擔スルハ則チ財産ニ重責ヲ負ハシムルモノナルヲ以テ擔保ニ供スル意義ハ之ヲ廣義ニ解スルトキハ債務ヲ負フヘキ總テノ場合ヲ包含スベシト雖トモ茲ニ所謂擔保ニ供スルトハ此ノ如キ意義ニアラスシテ特別擔保ニ供スルコト即チ本法第二編ニ規定セル處ニ從ヒ質權又ハ抵當權等ヲ妻ノ財産ノ上ニ設定スルコト是ナリ此等ノ權利ハ共ニ物權ノ一ニシテ頗ル有力強固ノモノニシテ不利益ナル對抗ヲ受クルノ結果ヲ生スヘキヲ以テ法律ハ此場合ニ於テモ亦夫ノ專斷ヲ禁セリ

第四 第六百二條ノ期間ヲ超スル賃貸借ヲ爲スコト  
第六百二條ノ規定ハ處分ノ能方又ハ權限ヲ有セサル者ノ爲ス賃貸借ノ期間ニ關スル制限ニシテ管理者タル夫モ亦其制限ニ服セサルヘカラス故ニ若シ此期間ヲ超エテ爲ス賃貸借ニ就テモ妻ノ承諾ヲ

要スヘキモノト爲シタリ

法律ハ一方ニ於テ以上ノ如キ制限ヲ設ケタルモ管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スル如キハ事些少ナルカ故ノミナラス之ヲ處分セサルハ甚シキ損害ヲ來スコトアルヘケレハ特ニ之ヲ除外シタリ

第八百三條 夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得(舊民法債權擔保編第二〇四條一號第二六條第二二六條)

本條ハ夫ノ財産管理ニ付妻ニ擔保請求權ヲ賦與シテ其權利ヲ保障シタルモノナリ

夫カ妻ノ財産ヲ管理スルニ當リテハ善良適實ニ其責ヲ尽スヘキハ論ヲ娖タサルモ或ハ過失怠慢ニ因リ或ハ一時ノ感情ニ因リ失當ノ



管理ヲ爲シ妻ノ財産ヲ危険ニ置クコトナキヲ保セス是ヲ以テ諸國ノ法律ハ之カ防止ニ資スル規定ヲ設ケサルモノ鮮シ蓋シ佛民法ニ於テハ妻ハ夫ノ不動産上ニ法律上ノ抵當權ヲ有スルモノトシ我舊民法モ其際ニ倣ヒ和蘭西班牙ノ民法ハ契約上ノ抵當アリトセリ本法ニ於テハ法律上又ハ契約上ノ抵當權ナルモノヲ認メス代フルニ擔保ノ請求權ヲ以テセリ妻カ裁判所ニ向テ此請求ヲ爲ストキハ裁判所ハ非訟事件トシテ之ヲ處分スヘキモノトス而シテ擔保ノ額ハ管理ノ收益ニ對シ且財産ノ返還及損害ノ填補ニ相當ナリトスル價格ヲ標準トスヘキモノニシテ其額ハ裁判所ノ認定ニ委スヘキモノトス

第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(舊民法財産取得編第四三四條)

第一項 意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(舊民法財産取得編第四三四條)

本條ハ或範圍内ニ於テ妻ニ代理權アルコトヲ認メタリ  
 日常ノ家事トハ食用品ノ買入不用物ノ賣拂等ノ如キ日々絶ヘス取行ハルヘキ諸種ノ細事ヲ云フ夫レ夫ハ外部ニ對シ諸般ノ關係ヲ整理シ或ハ一定ノ事業ニ從事シ一家生計ノ大綱ヲ把持シ日常ノ瑣事ハ舉テ之ヲ妻ニ委附スルハ實際便宜ニシテ又我國ノ習俗タリ本條ハ此ノ實際ノ便宜ヲ酌ミ習慣ヲ認メタルニ外ナラス若シ日用品ノ賣買ニ付テモ妻ニ代理權ナキモノトスレハ其賣買取引ハ總テ妻ノ行爲トナリ妻ニ對シテノミ責任ヲ生スヘク夫ニ在リテハ何等ノ關係ヲモ生セサルコト、ナリ第三者ノ屢々迷惑ヲ感スルコトアルト同時ニ一家ノ爲メニモ不利言フ可ラサルモノアラシ是レ本條第一



項ノ規定アル所以ナリ舊民法ニ於テモ婦ノ名ヲ以テ生セシメタル債務カ家事管理ノ爲メニ生シタルモノナルトキハ夫ハ之ヲ辨濟スヘキモノトシタルハ暗ニ本條ノ趣意ト照應スル所ナリ外國ノ法律ニ於テモ或ハ妻ノ代理權ハ法律ニ規定シタルモノニ限り毫モ伸縮スルコトヲ許サ、ルアリ或ハ契約ヲ以テ自由ニ變更スルコトヲ許スアリ本法ハ後ノ主義ニ依リタルモノトス

夫ハ家事管理ニ關スル妻ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得蓋シ妻ノ性質素行等ニ鑑ミ之ニ代理權ヲ認メ其行爲ヲシテ夫ニ對シ直接ニ法律上ノ効力ヲ有スルモノトスルトキハ一家ノ浮沈スルコト往々之レアル可クレハナリ然レトモ妻ニ代理權アルヤ否ヤハ一々他人ノ明知スルヲ得サルコトナルヲ以テ代理權ヲ否認シテ善意ノ第三者即チ妻ニ代理種アリト信シテ取引シタル者ニ對抗

シ妻ノ爲シタル行爲ハ夫ニ於テ其責ニ任セスト主張スルコトヲ得サルヘキナリ

**第八百五條** 夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

(舊民法財産編第八四條)

本條ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ及妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ノ注意ノ程度ヲ示シタリ

舊民法ニ於テハ其條文ノ沿滯ナルニ拘ラス本條ノ場合ニ於ケルカ如ク夫婦ノ注意ノ程度ヲ示サ、ルカ故ニ一ノ疑團ヲ生シ他ノ場合ノ規定ヲ類推シ善良ナル管理人ノ注意ヲ要ストノ解釋ヲ下シタリ然レトモ夫カ妻ノ財産ヲ管理スルニ當リ善良ナル管理人ノ注意ヲ望ムハ情誼ニ適セサルヲ以テ本條ハ之ヲ明揭シ自己ノ爲メニスル



ト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ストセリ蓋シ至當ノ規定ナリト云フ  
ヘシ

第八百六條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻  
ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ノ委任  
ニ關スル或規定ヲ適用スルコトヲ定メタリ

第六百五十四條ハ委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受  
任者其相續人又ハ法定代理人ハ委任者其相續人又ハ法定代理人カ  
委任事務者ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲ス  
コトヲ要スル旨ヲ規定シ第六百五十五條ハ委任終了ノ事由ハ委任  
者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知ス  
ルカ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方

ニ對抗スルコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ而シテ本條ハ右ノ  
規定ヲ以テ夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス  
場合ニ準用スト云ヘリ故ニ夫カ妻ノ財産ノ管理ヲ止メテ爾後妻カ  
自ラ管理スルコト、ナリタル場合ニ於テモ急迫ノ事情アルトキ例  
ヘハ收獲シタル果實カ將ニ腐敗セントシ又ハ債權カ時効ニ因リテ  
消滅セントシ家屋カ將ニ崩壞セントスルカ如キ事情アルニ當リ妻  
ノ疾病又ハ旅行中ニテ必要ノ處分ヲ爲スコト能ハサルトキハ夫ハ  
自己ノ管理ノ終了シタルニ拘ハラズ其果實ヲ賣却シ時効中斷ノ手  
續ヲ爲シ家屋ヲ修繕スル等財産保全ニ必要ナル行爲ヲ爲サ、ル可  
ラス又妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニモ夫カ代理權ノ全部又ハ一部ヲ  
否認シ即チ代理權ナキニ至リタルニ拘ハラズ妻ハ前述ノ如ク必要  
ナル處分ヲ繼續セサル可ラス而シテ管理又ハ代理終了ノ場合ニハ



其事由ノ夫ニ出テタルト妻ニ出テタルトヲ問ハス相手方ニ通知シタルカ又ハ相手方ノ既ニ之ヲ了知セルトキニ非サレハ管理又ハ代理ノ終了シタルコトヲ以テ相手方ニ對抗シ其責ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス

第八百七條 妻又ハ入夫カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己

ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス

夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス (舊民法財産取得編第四三五條)

本條ハ夫婦間ニ於ケル財産ハ何レノ所屬ナリヤヲ規定セリ吾國舊來ノ慣習ニ於テハ妻ハ特有財産ヲ有セサルヲ通常トシタルカ故ニ妻ノ財産ハ總テ悉ク夫ノ所有ニ販スルヤノ疑ヲ生スヘキヲ以テ茲ニ明文ヲ掲ケ以テ其歸屬スル所ヲ明瞭ナラシメ婦人ノ權利ヲ保障

シタルニ止マリ別ニ説明スヘキモノナシ

第四節 離婚

離婚法ハ各國古來幾多ノ變革ヲ經タレトモ要スルニ婚姻法ト其性質相隨伴スルモノタリ自由結婚ヲ主義トスル國ニ於テハ自由離婚ヲ許シ而テ婚姻ヲ以テ財産取得ノ一方法ト爲セシカ故ニ其時代ニ於テハ自由ニ其妻ヲ委棄スルコト恰モ財産ヲ擲棄スルニ異ナラサリシ然レトモ又婚姻ヲ以テ全智全能ナル上帝ノ命スル所ナリトスル時代ニ於テハ人爲ヲ以テ之ヲ解除ス可ラサルモノト爲シテ離婚禁止ノ法令ヲ布ケリ夫ノ婚姻ヲ以テ血統ヲ承繼シ兼テ人口ヲ繁殖セシムルノ方法ト信シ子ヲキテ以テ正當ナル離婚ノ原因ト爲シ或ハ婚姻ヲ以テ男女ノ情慾ヲ規律的ニ満足セシムル方法ト看做シ生理上ノ無勢力ヲ以テ



正當ナル離婚ノ原因ト爲シタルカ如キ離婚ニ關スル主義沿革ハ全ク一言以テ蔽フヘカラスト雖モ要スルニ三大別ニ販スルモノ、如シ即  
 (一) 絶對ニ離婚ヲ禁スルモノ (二) 自由ニ離婚ヲ許スモノ及 (三) 一定ノ制限ノ下ニ離婚ヲ請スモノ是ナリ而メ離婚許否ノ利害得失ハ専ラ其國情慣行ニ照シテ決スヘキモノニシテ一刀兩斷ニ決スヘカラサルナリ只獨リ現時ハ我國ノ事情ニ照セハ制限離婚ヲ以テ最良ノ法制トス本法ハ協議上ノ離婚ト裁判上ノ離婚トノ二種ヲ認メタリ以下各條ニ就テ説明スル所アラン

第一款 協議上ノ離婚

第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得(舊民法人事

編第七八條)

本條ハ汎ク協議離婚ヲ許スノ主義ヲ掲ケタリ  
 夫レ當事者ノ承諾ヲ以テ要件トナシ其他種々ノ條件ヲ定メタル本法ノ下ニ於テ是等諸般ノ條件ヲ充タシ適法ナル結婚ヲ爲シタル以上ハ終生共同生活ヲ營ムニ適スヘク復タ離婚ヲ許スノ必要ヲ見サルカ如シト雖モ翻ツテ實際ノ情況ヲ視ルトキハ却テ離婚ヲ許可スルノ必要ヲ知ルヘシ蓋シ社會生活上諸般ノ情況カ日ヲ逐フテ變遷スルハ免レ難キ事態ニシテ夫婦間ニ於ケル共同生活ノ情況モ又此數ニ洩ル、能ハス當初豫期セサリシ事情續出スルコトアルヘシ例ヘハ婦ノ心情瘳惡ニシテ一家ノ團樂ヲ傷クル如キ或ハ夫ノ品行不貞ニシテ扶養義務ヲ完フセサルカ如キ或ハ又父母ノ虐待同居ニ堪ヘサル如キ是レナリ此ノ如キ事情ノ存スルニ拘ハラス強テ夫婦ノ情緣ヲ維續セントスルトキハ往々恐ルヘク忌ムヘキ結果ヲ誘起ス



ルコトアリ是レ本法ニ於テ離婚ヲ許ス所以ナリ而シテ本條ハ協議離婚ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ制限セシテ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得ト汎言セルカ故ニ如何ナル場合ニ於テモ當事者ハ有效ニ離婚協議ヲ爲シ得ヘキナリ

尙本條ハ協議ニ關シ別ニ方式ヲ限ラサルカ故ニ意思表示ニ關スル普通ノ原則ニ從ヒ之レヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解セサル可ラス唯々離婚ノ效力ヲ生セシムルニハ下ノ第八百九條ノ規定ニ依リ届出ノ手續ヲ要スルノミ

第八百九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス (舊民法人事編第七九條)

本條ハ滿二十五年以下ノ者ノ離婚ニ特別ナル能力ヲ規定シタルモノナリ

夫レ離婚ハ啻ニ夫婦偕老ノ契ヲ斷ツノミナラス婚姻ニ由テ生シタル總テノ姻族關係及親族關係ハ之レニ因テ全ク絶止スルモノニシテ一家ノ系統上至大ノ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ之ヲ斷行スルニ當ツテハ須ク深思熟考セサル可ラス

婚姻ニ付テハ男ハ滿十七年女ハ滿十五年ヲ以テ其能力具ハルモノトシタリト雖モ未タ一家重大ノ事件ヲ判斷スルノ智力充分ナリト言フ可ラス故ニ本條ハ滿二十五年以下ノ者ニ對シテハ之カ監護ノ地位ニ在ル者ノ一致協同ヲ要スト認メ第七百七十一條及七百七十二條ニ準據スヘキ旨ヲ定メタリ同條ニ依リ同意ヲ表スルノ權利ヲ有スル者ハ父母後見人及ヒ親屬會ノ四者ナリトス而シテ如何ナル



場合ニ其何人ノ同意ヲ規スルヤハ前既ニ説明シタルヲ以テ茲ニ再説セサルヘシ

總則ノ規定ニ依レハ滿二十年ヲ以テ成年トシ成年ニ達スレハ一般ノ法律行爲ニ付テ有效ニ働作スルコトヲ得ヘキモノトス然ルニ本條ハ其年齡ニ甘ンセス特ニ二十五年ト定メタルハ離婚ノ事タル一家ノ隆替ニ關スル重要ノ事件タルヲ以テ之ヲ重視シタルニ外ナラス

第八百十條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス（舊民法人事編第八〇條第八九條）

本條ハ禁治産者カ離婚日ヲ爲ス能力及離婚ノ效力ヲ生スル條件ヲ規定セリ

第七百七十四條ハ禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ法定代理人ノ同意ヲ

要セストノ規定ニシテ其理由ハ同條下ニ於テ既ニ説明シタレハ今重テテ説カス只其離婚ヲ爲スニモ法定代理人ノ同意ヲ要スルナリ第七百七十五條ハ婚姻ノ効力ヲ發生スルノ條件トシテ戶籍吏ニ届出ツヘキコト及其届出ニハ當事者双方及成年ノ証人二人以上ヨリ口頭又ハ署名シタル書面ニテ爲スヘキコトヲ定メタリ是又同條ノ下ニ説明シタル所ナリ乃チ離婚ノ効力發生期モ亦届出ニ初マルト云フニ在リトス

舊民法人事編第八十條ニハ離婚届出ノ爲メ規定スヘキ書類ヲ列擧シタルモ此等ハ戶籍法ノ規定スヘキ細則ニ屬スルヲ以テ本法ハ之ヲ省キ唯實質上ノ要件トシテ届出ヲ要スル旨ヲ掲ゲタリ

第八百十一條 戶籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サ



レハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラルヽコトナシ（舊民法第七八六條同人事編第八〇條第八九條）

本條ハ戸籍吏カ離婚ノ届出ヲ受理スルニ付テ遵守スヘキ規則ヲ定メ併セテ之ニ省キタル場合ノ効力ヲ示ス

第七百七十五條第二項ハ即チ婚姻届出ニ關スル要件ナレハ戸籍吏ハ離婚ノ届出カ同條ノ要件ニ適スルコト即チ當事者双方及証人二人以上ヨリ爲シタルヤ否ヤ証人ハ成年ナリヤ否ヤ其他婚姻ニ關スル法律ノ命令ニ背及セルヤ否ヤ等ニ注意シ此要件ノ一ヲ欠クトキハ届出テ却下スヘキモノトス其精神ハ第七百七十六條ト同一ナレハ同條ノ説明ヲ再讀スヘシ

第二項ハ第七百七十八條第二項ト同一ノ精神ニシテ戸籍吏ハ前項ノ規定ニ依リ努メテ違法ノ離婚ヲ防遏スヘキモ而モ戸籍吏カ其違法ナルモノヲ默過シタルトキト雖モ離婚ハ依然其効力ヲ生セシム是レ戸籍吏過失ノ責ヲ當事者ニ負ハシムルハ甚タ不利ナレハナリ然レトモ届出タル事實カ意思ナクシテ爲サレ又ハ詐欺強迫ニ基クモノナルトキハ他ノ法律行爲ト同シク之ヲ取消シ得ヘキヤ當然ナリ

第八百十二條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス  
父カ離婚ニ因リテ婚家ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ハ母ニ屬ス

前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ父母ノ權利義務ニ變更ヲ



生スルコトナシ（舊民法人事編第九〇條）

本條ハ協議離婚ノ場合ニ離婚中舉ケタル子ノ監護ハ何人ノ爲スヘキモノナルヤヲ定ム

協議離婚ノ場合ニハ其離婚ノ協議ト共ニ子ノ監護ヲ爲ス者ヲモ協議シテ定ムルハ實ニ當事者ノ意思ニ適ヒ且實際ノ便宜ニ合フモノトス故ニ法律ハ當事者ノ自由意思ニ任セ敢テ干涉ヲ爲サ、ルナリ舊民法人事編ニ於テハ離婚ノ後子ノ監護ハ夫ニ屬ス但入夫及婿養子ニ付テハ婦ニ屬ス（人事編第九十條第一項）ト夫婦ノ協議ヲ以テ監護者ヲ定ムルコトヲ許サス只夫婦親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判上ノ手續ヲ經テ他ノ一方若クハ第三者ノ監護ニ付スルコトヲ得ルコト、セリ（第二項）是レ我國舊來ノ慣習ニ違ヒ實際ノ便宜ヲ顧ミサルモノニシテ協議離婚ノ性質ニ悖ルモノナリ故ニ本條第一項ハ之

ヲ革メ況ク夫婦ノ協議ヲ許シ唯協議ナキ場合ニ始メテ法律ノ規定ニ依リ父ノ監護ニ付セシメタリ

以上ハ父カ離婚ニ因リ婚家ヲ去ラサル場合ヲ想像シテ規定シタルモノナリト雖モ若シ父カ離婚ニ因リ婚家ヲ去リタルニ拘ハラズ猶其監護ニ屬セシムルハ啻ニ人情ニ適セサルノミナラス家族制ヲ紊亂スルニ至ルコトアルヘキカ故ニ第二項ノ規定ヲ設ケ此場合ニハ子ノ監護ハ母ニ屬スルモノトセリ尙本條ハ專ラ子ノ監護ノミニ關スルモノニシテ監護ノ範圍外即チ親子間ノ權利義務其他親權ノ他ノ効力ニ影響ヲ及ホスモノニアラス故ニ親子扶養ノ如キ相互請求スルヲ得ヘキモノトス是レ第三項ノ規定スル所タリ

## 第二款 裁判上ノ離婚



本款ノ規定ニ相當スル舊民法人事編第五章第二節ハ特定原因ノ離婚ト題シ別テ三款ト爲セリ即チ第一款離婚及不受理ノ原因第二款假處分第三款離婚ノ訴是ナリ然レトモ假處分ノ如キ又第三款中證據ノ事ヲ規定セルカ如キ共ニ訴訟法ノ部類ニ屬スヘキモノニシテ民法ノ規定スヘキ事項ニ非サルナリ故ニ本法ハ之ヲ人事訴訟手續ノ規定ニ讓リ唯離婚ノ原因及訴權消滅ノ如キハ其性質實體法ニ屬スヘキモノニ就テノミ詳密ニ規定セリ以下各條下ニ於テ之ヲ研究セン

第八百十三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限り離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得(舊民法人事編第八一條第八七條第一四八條)

- 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
- 三 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ

- 四 配偶者カ偽造、賄賂、猥褻、竊盜、強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ



十 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタルトキ又ハ養子カ家  
 女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離縁若クハ縁組ノ取消ア  
 ルタルトキ

本條ハ裁判上離婚ノ原因ヲ列記限定シタルモノナリ  
 抑々永久無期ノ目的ヲ以テ結合シタル婚姻ヲ後ニ至リ取消サント  
 スルハ事態萬已ムヲ得サルニ出ツト雖モ亦實ニ例外的ノ事項ナル  
 ナ以テ之カ原因萬已ムヲ得サル場合ノミニ限定シタルハ他ノ場合  
 ニ類推敷衍スルヲ許サズ本條列記スル所ハ即チ事態重大ニシテ立  
 法者カ認メテ以テ離婚ノ原因ト爲スニ適シタルモノト認メタルモ  
 ノナリ

一、配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲スコトヲ得サルハ本章第七百  
 六十六條ノ明記スル所ニシテ又現行刑法ノ罰スル所ナリ實ニ

重婚ノ所爲タル夫婦ノ情愛ヲ無視シ人倫ノ自然ニ背キタル行  
 爲ニシテ一夫一婦ノ主義ニ悖ルモノナレハ法律ハ第七百八十  
 條ノ規定ニ依リ前配偶者ニモ後婚ノ取消權ヲ與ヘタリ然レト  
 モ既ニ重婚ヲ爲ス如キ者ハ前配偶者トノ情縁極メテ澆薄ナル  
 ナ以テ後婚ヲ取消シテ前婚ヲ繼續スルモ到底圓滿ニ共同生活  
 扶養ノ道ヲ全フスルノ望ナキ場合多カルヘキヲ以テ法律ハ又  
 之ヲ以テ離婚ノ原因ト爲シ配偶者ノ一方ヲシテ更ニ良縁ヲ求  
 ムルノ機ヲ得セシメタリ

二、妻ノ姦通モ亦刑法上ノ犯罪タルト同時ニ民法上ヨリ視レハ  
 血統混亂ノ危険其他種々ノ弊害アリ且我國ノ慣習ヨリ推スモ  
 婦女ハ終生一夫ヲ守リ貞節ヲ全フスヘキモノナルニ斯カル不  
 義姪逸ノ所爲アルハ實ニ獸類ニモ若カサルモノナレハ之ニ托



スルニ一家ノ内事ヲ以テスルハ財産ノ整理子孫ノ教育上ニ關シ其危險言フヘカラサルモノアリトス是レ妻ノ姦通ヲ以テ離婚ノ一原因ト爲シタル所以ナリ

三、夫カ姦淫ヲ爲スハ不貞ハ則チ不貞ナリト雖モ婦ノ姦通ニ比スレハ其情甚タ輕キヲ以テ刑法ニ於テモ有婦ノ夫カ處女ニ通スルコトハ之ヲ不問ニ置ケリ故ニ夫カ唯他女ト通スルノミニテハ離婚ノ正當ナル原因ト爲ラス姦淫罪ニ因リ刑ニ處セラレ始メテ離婚ノ一原因ト爲ルナリ蓋シ姦淫罪ニ因リ刑ニ處セラレ、如キハ通常淫行顯著ナルヲ以テ遂ニ之ヲ公認セラレタル者ナレハ斯ル素行修マラサルモノト終生共同生活ヲ營ムコトハ人情トシテ堪ヘサル所ニシテ從テ一家ノ不幸重大ナレハナリ

四、本號列記スル所ノ犯罪ハ所謂破廉耻罪ニシテ此等ノ犯罪ニ

因リ刑ニ處セラレ、如キ者ハ將來社會一般ヨリ擯斥ヲ受ケルニ至リ満足ナル生活ヲ遂クル能ハサルノ恐アルノミナラス斯ル者ノ夫タリ婦タルコトハ名譽ヲ重スル者ノ忍フ能ハサル所ナレハ之ヲ以テ離婚ノ原因ト爲シタルハ固ヨリ至當ノ事ナリトス草案ニ於テハ本號ノ如ク犯罪ノ種類ヲ列舉セスシテ配偶者カ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキト書シタルヲ委員會ニ於テ之ヲ改メ列記法ヲ採リタルナリ蓋シ草案ノ如クスルトキハ例ヘハ夫カ竊盜詐欺取財等ノ罪ニ因リ刑ニ處セラレタルモ其刑期三年以下ナルトキハ離婚ノ原因ト爲ラサルコト、ナリ單ニ刑期ノ三年以上ナルト以下ナルトニ由リ離婚許否ノ標準ヲ定ムルハ謂レナキ事ナルト同時ニ三年以上ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ犯罪ノ種類ニ因リテハ必スシモ離婚ノ正



當ナル原因ト爲スヘキモノニアラサルヲ以テ本號ノ修正其理由ヲ得タルモノト云フヘシ

五、同居ニ堪ヘサル虐待トハ例ヘハ毆打拷責シ若クハ飲食衣服ヲ屏去スル如キヲ曰フ斯ノ如キハ實ニ夫婦ノ愛情ヲ無視シタル背倫ノ行爲ナレハ永ク夫婦ノ情諸ヲ維持スヘキ望アラサレハナリ

六、惡意ヲ以テ遺棄スルトハ例ヘハ夫ハ婦ノ飢寒ニ迫ルヲ知リナカラ衣食ノ資ヲ給セス獨リ遊逸ヲ姿ニスル如キ又ハ夫ハ長病ニ罹リ身体不自由ナルニ妻カ藥餌ヲ供セスシテ遠ク遊歴スルカ如キナリ是又前號同一ノ理由ニ基ク離婚正當ノ原因タリ

七、配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受クルトハ例ヘハ夫ノ父母又ハ祖父母等カ婦ヲ毆打シ又ハ婦ノ名譽ヲ傷

クヘキ事ヲ舉ケテ之ヲ攻撃シ若クハ之ヲ挑ムカ如シ實ニ夫ノ尊屬親ハ同時ニ婦ノ尊屬親ナレハ其婦ヲ遇スルニ慈愛ノ情ヲ以テスヘキニ虛待侮辱ヲ爲ス如キハ親族ノ情誼ニ悖ルノ甚シキノミナラス婦ハ永ク之ヲ甘受スルコト能ハサルヘク遂ニハ一家ノ風波絶ヘサルノ不幸ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テ法律又ハ之ヲ以テ離婚ノ原因ト爲セリ

八、自己ノ直系尊屬親ハ自己ノ最モ敬慕スル所ナルニ之カ配偶者タル者更ニ顧慮スル所ナク之ニ對シ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ加フル如キアラハ血族ノ情理上忍フ可キニ非ス斯ノ如キ背倫ノ配偶者ト永ク夫婦ノ關係ヲ保タントスレハ一家ノ爲メ極メテ不利トスル所アレハナリ

九、夫婦ハ互ニ扶養ノ義務アリ又同居スルノ權義アリ相愛シ相



扶ケ以テ家政ヲ經綸シ子孫ヲ教育シ宗祀ヲ尊奉スヘキナリ然ルニ配偶者ノ一方カ長ク遠地ニ在リ其生死三年以上モ分明ナラサルトキハ夫婦ノ一方ハ名ノミ夫婦ナルモ實ハ鰥寡ニ同シク徒ラニ其空閨ヲ守ルハ人情忍ヒサル所ナリ是レ離婚ノ一原因ト爲シタル所以ナリ

十、本號ハ第七百八十六條ト其精神略ホ同一ナルヲ以テ茲ニ解説セス要スルニ婚姻ト養子縁組トノ兩個ノ關係存在スル場合ニ於テ其一關係消滅シタルニ他ノ一關係ヲ依然維持スルハ當事者ノ初志ニ非ラサルハ人ノ常情ナルヘク強テ一方ヲ維持セシムルモ何等ノ利益ナキノミナラス却テ一家ノ幸福ヲ減損スヘケレハナリ

第八百十四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ

他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキ亦同シ

本條ハ前條離婚ノ訴ヲ提起シ得サル場合即チ訴權ノ消滅ヲ規定セリ

前條第一號乃至第四號ニ掲クル所ハ配偶者ノ一方ヲ保護スルノ趣旨ナリ然ルニ他ノ一方之ニ同意ヲ表シタル上ハ最早保護スル所以ノ原因消滅シタルヲ以テ之ヲ原因トシテ離婚ヲ請求スルノ理由アラサルカ故ナリ

又前條第一號ヨリ第七號ニ至ル事項アルモ配偶者ノ一方ニ於テ之ヲ宥恕シタルトキモ亦訴權消滅スルナリ何トナレハ自カラ其權利



ヲ拋棄シタルモノナレハナリ

抑モ法律カ斯ル規定ヲ設ケルハ何ソヤ前條ニ於テハ公益上及私益上其權利ヲ認ムルノ要アリト雖モ既ニ被害者ニ於テ之ヲ宥恕スルハ心中甚タ怨恨ニ堪ヘサルモ一家ノ私事ヲ擧テ世上ニ表彰スルニ至リテハ上祖宗ノ靈ヲ辱シメ下一身ノ不徳ヲ暴露シ小怨ニ忍ヒス大耻ヲ忘ル、モノナルヲ悟リ涕ヲ吞ンテ耐忍シタル拘ハラス尙訴權ヲ與フルトキハ更ニ翻心起訴スルニ至ルナキヲ保セス隨テ其美德ヲ傷クルノミナラス既ニ追認又ハ拋棄シタル權利ハ再ヒ之ヲ取消シ又ハ回收スヘカラサルハ法律上ノ大原則ナレハナリ

**第八百十五條 第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由シトテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス**（舊民法人事編第八二條）

本條モ亦離婚ノ訴ヲ爲シ得サル場合ヲ定ム

第八百十三條第四號ノ刑ニ處セラレタル者ノ配偶者ニ離婚請求權ヲ與ヘタルハ一ニ其者ノ名譽ヲ重シ且其心情ヲ察シ之カ離婚ヲ許シ更ニ適當ノ良緣ヲ求メシメントスルニ外ナラス然ルニ其配偶者自身モ亦同一ノ處刑ヲ受ケタルトキハ自ラ名譽ヲ傷ケ地位ヲ損スル彼是擇ブ所ナキヲ以テ以上ノ理由ヲ主張スルニ語ナカルヘキナリ此他本條ニ就テハ別ニ詳説スヘキモノナシ

**第八百十六條 第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ**

本條ハ離婚訴權ノ消滅時期ヲ定メタリ法律ハ種々ノ理由ニ依リ多



クノ場合ニ於テ離婚ノ訴ヲ許シタリト雖モ此權利ヲシテ永久無期ナラシムルハ不可ナルヘシ蓋シ夫婦間ニ於テハ愛情濃厚ナルヲ以テ縱令不良ノ所爲アリテ一時赫怒スト雖モ遂ニハ不知不識ノ内ニ幾多ノ歲月間之ヲ黙過スルニ至ルコトアルヘシ此場合ニ於テ一ケ年ノ久シキ婚姻ヲ繼續セルハ既ニ離婚ヲ請求スルノ意思ナキモノト推定シ得ヘシ是ヲ以テ本條ハ第八百十三條第一號乃至第八號ノ原因ニ就テハ之ヲ知リテヨリ一ケ年間訴ヲ起サ、ルトキハ復タ之ヲ提起スヘカラサルモノトシ又縱令之ヲ知ラサリシトキト雖モ其事實發生ノ時ヨリ多年ヲ經過シ即チ十年ノ久シキニ至レハ其感情モ漸次稀薄ニ傾クヘキハ世上萬般ノ行事概チ一途ニ出ツヘケレハ獨リ此權利ヲ保存スルノ必要ナカルヘク殊ニ十年前ノ事實ヲ証セサルヘカラサルノミナラス又自ラ之ヲ知ラサリシ消極ノ事實ヲ証

明スルハ最モ困難ナルヘシ加之ナラス十年前ニ溯ホリ舊惡ヲ証クハ又以テ自己ノ羞恥ヲ晒スニ至リ寧ロ其損アリテ益ナケレハナリ本條ハ第八百十三條第一號乃至第八號ノミニ就テ言ヒ同條第九號及ヒ第十號ヲ除キタルハ如何蓋シ第九號ハ配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ始メテ離婚訴權ヲ發生スヘシト雖モ是レ専ラ寡居ヲ憐ムノ精神ヨリ出タルモノナレハ五年、十年若クハ二十年ノ長年月ニ涉リ尙配偶者ノ飯來ヲ期待セルハ實ニ貞烈無二ノ衷情ヨリ出ツルモノニシテ極メテ美事トスヘク五年若クハ七年ヲ經タルカ故ニ最早離婚ヲ許サストノ理由ハ生セサルナリ三ケ年間配偶者ノ音信ナキヲ奇貨トシ其滿期ノ至ルヲ翹望シ匆忙離婚ノ訴ヲ提起スルカ如キハ寧ロ節操ニ乏シキ凡庸者ノ行爲タルノミ

第八百十三條第十號ノ場合ニ就テハ別ニ第七百八十六條第二項及



第八百十八條ノ規定アルヲ以テ重複ヲ避ケテ茲ニ之ヲ省キタルナリ

第八百十七條 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本條モ亦離婚訴權消滅ノ場合ヲ定ム

本條ノ理由ハ第八百十三條第九號ヲ以テ離婚ノ一原因ニ列シタル理由ヲ玩味スレハ則チ明了タルヲ得ヘシ乃チ前既ニ略説シタル所ニシテ別ニ深キ理由ノ存スルニ非サレハ讀者第八百十三條第九號ノ理由ヲ參觀アリテ可ナリ

第八百十八條 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離縁又ハ縁組ノ取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百十三條第十號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離縁又ハ縁組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三ヶ月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス  
(舊民法人事編第一四八條)

本條第一項ハ離婚又ハ縁組取消ノ訴ヲ提起シタルトキハ便宜上離婚ノ訴ヲモ亦之ニ付帶セシムルコトヲ得ル旨ヲ定メ第二項ハ訴權消滅ヲ規定セルナリ離縁又ハ縁組取消ヲ理由トシテ離婚ヲ爲ス場合ニハ則チ離縁トナリ又ハ縁組ノ取消サレタルコトノ其原因ナレハ本條ノ規定ナキトキハ先ツ離縁又ハ縁組取消ノ訴ヲ爲シ勝訴判決確定シタル後ニ非サレハ離婚請求ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルナリ斯クノ如クハ獨リ當事者ノ意思ニ適セサルヘキノミナラス徒ラニ訴訟上ノ煩雜ヲ來シ日時ト費用ヲ徒消スルノ結果ヲ生スル



ヲ以テ本條ノ規定ヲ生シタルナリ

第二項ハ訴權消滅ノ時期ヲ定メタルモノニシテ之カ理由ハ前ニ述  
ヘタル所ト同一ナレハ茲ニ復說セズ

第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分

ヲ命スルコトヲ得(舊民法人事編第九〇條)

本條ハ裁判上ノ離婚ノ場合ニハ何人カ其子ノ監護者タルヤヲ定ムル  
第八百十二條ハ協議上ノ離婚ヲ爲シタルトキハ子ノ監護者モ協議  
ヲ以テ定ムヘキコトヲ許シ其之ヲ定メサリシトキハ子ノ監護ハ夫  
ニ屬スルモノトシ又父カ離婚ニ因リテ婚家ヲ去リタルトキハ子ハ  
母ノ監護ニ屬スルモノトセリ今裁判上ノ離婚ノ場合ト雖モ子ノ監  
護ニ付テハ協議ヲ以テ定ムル固ヨリ不可ナル所ナシ然レトモ協議

上ノ離婚ノ場合ト大ニ事情ト感情ノ異ルアルヲ以テ相互自己ノ責  
任ヲ免カレンコトヲ欲シ若クハ強テ自己ノ監護ノ下ニ置カシコト  
ヲ主張スルカ如キ專ラ一方ノ希望ニ反抗スルヲ是レ事トシ更ニ子  
ノ利益ニ注意スル所ナク自カラ取リテ之ヲ虐待スルニ非ラズンハ  
妄リニ第三者ニ托シテ敢テ願ミル所ナク偏ヘニ一方ノ其子ノ愛情  
ニ縛束セラレ再ヒ復歸スルヲ冀フノ弊ナキヲ保セス是レ第二項ノ  
規定ノ必要ナル所以ニシテ裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ必要ナル處分  
例ヘハ離婚者ノ協議上甲ナル者ニ托シタルニ裁判所ノ意見ニヨリ  
甲ヲ以テ子ノ監護ニ適セサルモノト認メタルトキハ更ニ乙ニ托ス  
ルカ又ハ前夫婦ノ一方ニ之ヲ引受ケシムル等ノ處分ヲ爲シ以テ子  
ノ利益ヲ保全セシムヘキナリ



## 第四章 親子

親子トハ父母ト子トノ間ニ於ケル親族ノ關係ヲ云フ即チ其一定ノ男女ノ間ニ子ヲ擧ケタルノ事實ヨリ生スルニ外ナラス然レトモ社會上ノ事物千差萬別一律以テ規スヘカラスモノアリ是ヲ以テ或ハ事實上ノ親子ニアラスシテ法律上親子ト認メ若クハ事實上親子ナルモ法律上之ヲ公認セサルモノアリ故ニ凡ソ父子ノ關係ハ之ヲ別チテ三種トス第一單ニ事實ニ基クモノ即チ庶親子第二事實ニ基キ併セテ法律ニ認ムルモノ即チ正親子第三單ニ法律ニ基クモノ即チ養親子及繼親子是ナリ第一第二ハ實親子ニシテ第三ハ擬制親子タリ實子ハ之ヲ三様ニ區別ス嫡出子庶子私生子是ナリ嫡出子ハ其源ヲ婚姻ニ取ル故ニ適正ニ婚姻シタル男女ノ間ニ出生シタル子ヲ云ヒ庶子ハ夫妻タルノ

形式ヲ履行セサル男女間ニ出生シタル子ニシテ其男之ヲ認知シ自カラ其子トシテ届出テタル場合ニ於テ其男女ト子トノ間ニ存スル關係ナリ私生子ハ法律上父ノ知レサル子ヲ謂フモノニシテ私生子ノ親子ハ獨リ母ト子トノ間ニ存シ父認知ニ由リテ庶子ト爲ルモノナリ凡テ親族ノ關係ハ民法上種々ノ權利義務ヲ生スルモノナレハ法律ハ其關係ヲ明ニシ以テ其順序ヲ確定セサルヲ得ス蓋シ親子ノ關係ナルモノハ實ニ他ノ親族關係ノ源泉ニシテ獨リ其首位ヲ占ムルノミナラス幾多ノ權利義務皆是ニ因リテ胚胎セラル例ヘハ親權ノ如キ親子ノ分界明瞭ナルニアラサレハ之カ發生ヲ見ス其他親子ノ分界中ニ於テモ其嫡出子タルト庶子タルト私生子タルトニ依リ子タル者ノ權義ニ消長ヲ來タスモノ鮮少ナリトセス故ニ本章ヲ設ケテ先ツ親子ノ分界ヲ明定シ以テ因リテ生スル數多ノ權義關係ヲ確定シタルモノナリ



第一節 實子

第一款 嫡出子

第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨ

リ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

本條ハ嫡出子ニ就テノ規定ナリ

凡ソ子ハ夫ノ子ナリヤ否ヤハ直接ニ証明スヘカラサルモノニシテ

一ニ造化ノ妙用ニ属セリ然レトモ妻タルモノハ古今萬國ニ通シテ

本質上貞節ニシテ決シテ他ノ男子ニ接スヘカラサルモノナルコト

ヲ認ムルノミナラス本邦古來ノ舊慣ニ汲ムモ婚姻中ニ生シタル子

ハ夫ノ子タルコトヲ推定セサルヘカラス是世上普通ノ状態ニ適合

セル原理ニシテ蓋シ本條ノ因テ規定アル所以ナリ然レトモ推定ハ

或ハ之カ事實ニ反スルコトナシトセス故ニ公益ニ害ナキ限りハ之

カ反証ヲ許サ、ルヘカラス故ニ婚姻中ニ生シタル子ヲ以テ夫ノ子

ト推定スルモ其事實之ニ反シテ他人ノ子ナリシコトノ明確ナル舉

証アリタルトキハ之ヲ否認セシムル敢テ公益ヲ害セサルノミナラ

ス將來夫及子ノ爲メ獨リ利益ヲ見テ損害ヲ來タス恐レ之レナケレ

ハナリ故ニ本條ハ推定スト措キテ看做スト斷言セス以テ第八百二

十二條ノ規定ヲ爲シタル所以ナリ

第二項ハ懐胎ノ初期及其期間ヲ定メタリ凡ソ人類ノ懐胎ハ結婚中

其何レノ日ニ在ルヤヲ斷スヘカラス故ニ其懐胎ヲ算出スルニハ結

婚成立又ハ婚姻解消若クハ取消ノ當日ヨリスルヲ以テ正鵠ヲ得タ

ルモノト云ハサルヘカラス而テ其懐胎期間ニ至リテハ婦女ノ性質



長少、風土、境遇ニ從テ長短一様ナラス故ニ諸國ノ立法例ヲ見ルニ其期間區々ニ出テ、一定ノ標準ヲ求ムヘカラス然レトモ醫學上自ラ限度アリテ今専門家ノ說ニ依ルニ懐胎後二百日内ニ出生シタル子ハ殆ソト成育スル能ハサルモノニシテ又懐胎ノ時ヨリ三百日ヲ過キテ生ル、子モ亦甚タ稀少ナリトスト是ヲ以テ本法モ亦此說ニ酌ミ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後婚姻解消又ハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定シ第一項ト同シク之ニ反証ヲ許シタリ

本條第二項ニ婚姻解消ト云ヘルハ夫ノ死亡若クハ離婚又ハ失踪ノ場合ヲ包含シタル語ニシテ此等ノ日ヨリ妻ハ夫ニ接セサルモノト推定セルモノナリ而シテ此等ノ場合ト共ニ婚姻取消ノ場合ニ於テモ亦其取消ノ日ヨリ夫ニ接セサルモノト推定シタルナリ

茲ニ注意スヘキハ舊民法人事編第百條ニ於テハ子カ出生ノ後ニアラサレハ否認訴權ヲ行フヲ得サル旨ヲ明示セシモ本法ニハ之カ明文ヲ欠ケリ然レトモ次條ニ鑑ミ暗ニ出生後ニアラサレハ之ヲ行フヲ得サルコトヲ知ルヘシ

**第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム**

本條ハ妻カ前婚解消後法定ノ期間ニ違反シテ再婚ヲ爲シ生子ヲ分娩シタルトキ前條第一項第二項ノ規定ニ依リ生子ノ父ヲ定ムルコト能ハサル場合ニ於テ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ定ムルヤニ付テ規定セリ

夫レ妻ハ本法第七百六十七條ノ規定ニ依リ前婚解消又ハ取消ノ日



ヨリ六ヶ月後ニ非ラサレハ再婚ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ然ルニ此規定ニ反シ再婚ヲ爲シタリトセンカ其生子ヤ前ノ配偶者ノ血胤タルヤ後ノ配偶者ノ血統タルヤ不明ナル場合ヲ生スルコトアルヘシ此時ニ當リ何レノ血統タルヤヲ定ムルコト能ハサル場合ニ於テハ其生子ノ分限ハ實ニ不確定ニシテ其子ノ爲メ甚々憂フヘキ拯ト云フヘシ此場合ニ於ケル諸國ノ立法例ヲ見ルニ法律ヲ以テ定ムルモノアリ又事實ノ認定ニ委ヌルモノアリテ法律ヲ以テ一定スルヲ得サルモノナリ我本法亦事實ノ認定ヲ以テ裁判所ノ權能ニ委シタルハ頗ル機宜ニ適シタルモノト云フヲ得ヘキナリ

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

本條ハ夫ノ否認訴權ヲ規定セリ

第八百二十條ヲ説明スルニ當テ述タルカ如ク婚姻ニ因リ一定ノ期間内ニ出生シタル子ハ夫ノ子ナリトノ推定ハ往々事實ニ適モサルコトアルヘシ何トナレハ子カ眞實夫ノ子ナルヤ否ヤハ敢テ他人ノ知リ得ヘキ事ニアラス是ヲ以テ吾カ子ニ非ラサル事實アルトキハ本人タル夫ニ其子ヲ否認スルノ權利ヲ與ヘ以テ此推定ノ誤謬ヲ矯正セシム是實ニ適當ノ規定ト云フヘキナリ

諸國ノ立法例ヲ見ルニ子ヲシテ母ノ夫カ自己ノ父ニアラサルコトヲ證明スルコトヲ得セシムルモノアリ然レトモ是レ子ヲシテ父ヲ否認セシムルノ結果ヲ來スノミナラス母ノ非行ヲ摘發スルノ弊害ヲ生シ一家ノ和親安寧ヲ害スルコトアルヘキハ勿論子トシテ其父ノ眞否ヲ明言スルハ夢想タモ爲シ能ハサル架空ノ愚論タルヘケレハナリ



第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

本條ハ前條ノ否認權ハ何人ニ對シテ主張ス可キヤニ付テ規定セリ此否認權ノ主張ニ依リ利害ノ關係ヲ有スルハ父ト子トノミ然ルニ其子ニシテ無能力者ナルトキハ自ラ訴訟行爲ヲ爲スノ能力ヲ有セサルヲ以テ其法定代理人ニ對シテ爲スモノトス若シ其法定代理人カ父タルトキハ父子兩人ノ資格ヲ一身ニ擔ヒ以テ事ニ當ルハ利害正ニ相反スルヲ以テ事理ニ於テ許サ、ル所ナレハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任シ以テ子ニ代ハラシムルモノトナシタルナリ而シテ特別代理人ハ普通ノ場合ニ於テハ親族會ヲシテ選定セシムルヲ至當トスト雖モ此場合ニ於テ親族會ニ委スルトキハ偏頗ノ行動アルヲ

顧慮シ公明正大ナル裁判所ノ選定ニ任シタル所以ナリ

第八百二十四條 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

本條ハ父カ否認權ヲ失フ場合ニ付テ規定セリ親子分限ノ事タル一旦親子タルノ關係確定スル時ハ既ニ種々ノ權義關係ヲ生スルモノナレハ一度承認シテ再テ否認セシムルコトヲ許ストキハ係ハ終始變轉シテ遂ニ底止スル所ナカルヘシ殊ニ一旦嫡出子タルコトヲ承認シタルニ更ニ乍チ之ヲ否認セシムルコトヲ許ストキハ徒ラニ法ヲ弄シ子ノ權利ヲ蹂躪スルハ甚シキモノナリ此ノ如キンハ一家ハ常ニ動亂シテ親族ノ懇親ヲ保ツヘカラサルノミナラス延テ公安ヲ害スル結果ヲ生ス可キモノタレハ立法者ハ斯カル場合ヲ豫想シ一旦嫡出子タルコトヲ承認シタルトキハ復タ之ヲ否認スル



ノ機能ヲ失ハシムルナリ

### 第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年

内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

本條ハ否認訴權行使ノ期間ヲ定メタルモノナリ

否認訴權ハ尋常訴權ノ如ク永ク之ヲ行使スルコトヲ得ルモノトセ

ハ子ノ身分ハ永日月ノ間曖昧不定ノ間ニ置クノ弊害アリ故ニ之ヲ

可及的短キ期間ニ行使セシメサルヘカラス然レトモ之カ爲メニ証

據ヲ蒐集スルノ時日ヲ與ヘサル如キハ亦可ナラサルナリ是ヲ以テ

夫カ子ノ出生ヲ知リタルヨリ一ケ年間ニ之ヲ行使セシムルモノト

セリ蓋シ此期間タルヤ舊民法ニ比スレハ稍永キニ失スルヤノ感ナ

キニアラサルモ父カ遠隔ノ地ニ在ルカ如キ場合ニ於テハ速ニ之カ

訴權ヲ行使スルコトヲ得サルノ憾アルヲ以テ一ケ年間之ヲ行使セ

シムルモノト定メタルモノナラシテ舊民法ニ於ケル如ク種々

ノ場合ニ區別セサルハ煩雜ヲ避クルト共ニ此期間ハ以テ各場合ニ

應スルニ充分ナリト認メタルニヨルヘシ蓋シ至當ト云フヘキナリ

### 第八百二十六條 夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ

達シタル時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出

生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル

後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

本條ハ前條ノ否認訴權行使ノ期間ニ付或ハ特別ナル場合ニ於ケル

期間計算ノ方法ニ付テ規定セリ

前條ノ期間ハ普通ノ場合ニ於ケル規定タリト雖モ若シ否認者タル

者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ未成年者ニ在テハ成年ニ達



シタル時ヨリ起算シ又禁治産者ニ在リテハ禁治産ノ取消アリタル  
 後夫カ子ノ出生アリタルコトヲ知リタルトキヨリ起算スルナリ元  
 來子ノ否認訴權ハ夫ノミ之ヲ有シ又夫ニアラサレハ之ヲ行フコト  
 能ハサルモノニシテ後見人アリト雖モ亦如何トモスヘカラサルナ  
 リ而シテ此等ノモノハ無能力者タルヲ以テ訴訟ヲ爲スコトヲ得サ  
 ルカ故ニ其能力ヲ得ルノ日ニ至リ初メテ前條ノ期間ヲ起算スヘキ  
 モノトナシタルモノナリ  
 然レトモ夫カ能力ヲ得タルモ未ダ子ノ出生アリタルコトヲ知ラサ  
 ルニ於テハ縱令一年ヲ經過スルモ否認ノ權ヲ失ハシムルハ失當ナ  
 リ故ニ其事實ヲ知リタル日ヨリ起算スヘキモノトス是第一項但書  
 及第二項ニ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリト云ヘル規定アル所以  
 ナリ

第二款 庶子及ヒ私生子

第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ  
 得父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

本條ハ私生子ノ認知ノ事ヲ規定セリ

凡ソ親ナクシテ子アルノ理ナシ然レトモ親アリト雖モ不幸ニシテ  
 親ノ知レサル子ハ世上一二ヲ以テ數フヘカラサルヘシ而シテ此等  
 父母ノ知レサルノ子ハ父又ハ母ノ認知ヲ受クルコトヲ得ルモノト  
 ス舊民法ニ於テハ父ノ知レサル子ヲ私生子トシ父カ私生子ヲ認知  
 シタルトキハ庶子トナルコトヲ規定セリ父母ノ知レサル子ハ元ヨ  
 リ私生子ナリト雖モ母カ之ヲ認知スルヲ得サルノ理ナカルヘシ舊  
 民法ニ於テ母カ認知スルコトヲ定メサリシハ子ハ母ノ胎内ヨリ分  
 娩シタルモノナルヲ以テ母ノ知レサル子ナシトノ理由ニ依リタル



ナラン若シ母ニシテ子ノ出生ヲ届出サルモノナリトモハ母ノ知レサル子ナシト雖モ母カ子ノ出生届出ヲ怠リ後ニ至テ認知スルノ必要ヲ感スルコトナシトモ亦母カ子ヲ棄テ、後ニ至テ之ヲ認知スル場合モアルヘキナ以テ新法ハ母ノ認知ヲモ認メタルモノニシテ實ニ至當ト云フヘキナリ

父カ認知シタル子ハ之ヲ庶子ト爲シ之ヲ認知シタル父母カ婚姻ヲ爲シタルトキハ嫡出子トナルノ權テ與ヘタリ蓋シ私生子トシテ世ニ擯斥セラル、ハ子ノ爲メニ終生ノ不名譽ナルヲ以テ法律ハ之ヲ救護スルノ趣旨ヲ以テ特ニ之ヲ庶子トナシタルモノニシテ又本邦從來ノ慣習ニ適シタルモノト云フヘシ

**第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニ父又ハ母カ無能力者タルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス**

本條ハ無能力者カ認知ヲ爲ス場合ニ付テ規定セリ

夫レ認知ハ前已ニ述フルカ如ク父タリ母タル者ノ一身上ノ行爲ナレハ其父タリ母タル者ヲ措テ他ニ之ヲ知ル者アラサルヘシ是ヲ以テ其父又ハ母カ無能力者タル場合ニ於テハ之レヲ爲スコトヲ得サルモノナリトセンカ將タ何人カ之ヲ爲スコキヤ然ルニ無能力者タルト雖モ既ニ自己ノ子タルコトヲ知ルニ於テハ又法定代理人ノ同意ヲ經ルノ要ナシ何トナレハ此生子ハ我カ子ナルヤ他人ノ子ナルヤハ法定代理人ノ得テ知ルコトヲ得サルモノナレハナリ學者或ハ子ヲ認知スルハ事極メテ重大ナルヲ以テ無能力者タル父又ハ母ニ於テ之ヲ爲ス能ハスト然レトモ人子ヲ生ムハ既ニ相當ノ年齢ニ達シ智慮ノ發達シタルモノニアラサレハ能ハス之ヲシテ私生子ノ認知ヲ爲サシムルモ敢テ弊害ナキナリ而テ禁治産者ト雖モ一時心神



回復シタル場合ニ爲サシムルモノナレハ敢テ弊害ヲ見サルノミナ  
ラス前述ノ如ク父又ハ母タル者ノ自ラ決ス可キ所タレハナリ是本  
條ノ規定アル所以ナリ

### 第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ 爲ス

認知ハ遺言ニ依リテ亦之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ私生子ノ認知ヲ爲スノ手續方法ニ付テ規定セリ  
認知ハ認知スルトノミノ意思表示ニ由リテ爲スモノニアラスシテ  
之レヲ戸籍吏ニ届出テ、爲スモノタリ今純理ヨリ言ヘハ之ヲ認知  
スルノ意思表示ノミニテ其効力ヲ有スルモノナリト云ハサルヘカ  
ラスト雖モ人ノ身分ハ公益上之ヲ確定セサルヘカラス而テ其確定  
スルノ行爲ニ至チモ亦確實ナラサルヘカラス是ヲ以テ認知ノ行爲

ハ之ヲ戸籍吏ニ届出テ戸籍簿ニ登記スルニ因テ成立スルモノトセ

### 第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知ス ルコトヲ得ス

本條ハ成年ノ私生子ニ對シテ認知スルトキハ其私生子ノ承諾ヲ得  
ル事ヲ要スル旨ヲ明ニシタルモノナリ  
人成年ニ達スルトキハ相當ノ智識ヲ具ヘ自己ノ生存ニ付テハ多少  
企畫スル所アラシク然ルニ父母ニシテ恣ニ之ヲ認知セシカ父母ノ名  
譽ハ即其子ノ名譽ナリ且之ニ因テ權利義務ノ關係ヲ生セシムルハ



子ノ爲メニ迷惑トナルコトアルノミナラス既ニ成年ニ達スル迄ノ永年月間之ヲ遺棄シ其成年ニ達シ獨立ノ生計ヲ營ムニ至リ突然之ヲ認知スルカ如キハ人ノ身分ヲ輕々左右スルモノト云ハサルヘカラス

第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得

此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

本條ハ胎内ノ子又ハ死亡シタル子ヲ認知スル場合ヲ規定セリ父カ胎内ノ子ヲ認知シ得ル所以ハ其胎兒ハ自己ノ血統ナルカ故ニ其父ニアラサレハ之ヲ認知スルコトヲ得サルニ依ルナリ第八百二

十九條ニ於テ私生子ノ認知ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ストアリ胎兒ハ未タ人ナリト言フヲ得ス人ニアラサレハ又戶籍ニ登録スルノ謂レナク又胎兒ハ未タ母体ノ一部ナレハ出生後ニアラサレハ認知スルコトヲ得サルヤノ疑ヲ生スルヲ以テ特ニ法條ニ明示シタル所以ナラシカ然レトモ胎兒ヲ認知スルニハ必ス母ノ承諾ヲ要ス母ノ承諾ヲ要スル所以ノモノハ父一人カ恣ニ胎兒ヲ認知スルコトヲ得ルモノトセハ母ノ利害ヲ消長ス可ク又父一人自己ノ子ナリト信スルモ其母ニシテ若シ他族ノ男ト通シ爲メニ懐胎シタルモノナルヤモ知ル可ラス故ニ一旦母ノ意見ヲ尋子母ノ承諾ヲ得ルヲ要ストナシタルナリ

又第二項ノ規定タルヤ第八百三十五條ト表裏スルモノニシテ同條ニ於テハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知



ヲ請求スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ顧フニ自己ヨリ出テタル私生子ニシテ其直系卑屬タル子及ヒ孫アルモノハ自己ニ取リテモ孫或ハ曾孫ナリ故ニ其孫タリ曾孫タルモノ、爲メニ此等ノ者ノ親系ヲ明カナラシメントスルハ自然ノ人情ナリ故ニ假令己ニ死亡シタル子ト雖モ其子ニシテ直系卑屬アルトキハ己ニ死亡シタル子ヲ認知シテ自己カ其死亡子ノ父タルコトヲ明ニスルコトヲ得ルモノトナシタル所以ナリ然レモ死亡子ノ直系卑屬ニシテ若シ成年ニ達シタル者ナルキハ前條ノ成年者ヲ追認スルニ其者ヲ承諾ヲ得ルヲ要スト同一ノ理由ニヨリ尙ホ其者ノ承諾ヲ得ルヲ要スト爲ス所以ナリ

**第八百三十二條** 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

本條ハ認知ノ効果ヲ定メタルモノナリ

認知ハ屈出ニ因リテ之ヲ爲スモノナルヲ以テ其屈出ノ日ヨリ効力ヲ發生スルモノナルカ如キモ其行爲ノ性質タルヤ親子ノ關係ヲ認ムルモノ以テ出生ノ日ニ遡リ効力ヲ生スルモノト定メサルヘカラス此原則ニ一ノ例外アリ他ナシ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルコト是ナリ例ヘハ認知セラル、私生子カ己ニ他人ニ養ハレ其養家ノ相續人トナリ居ル場合ニ於テ實父カ其子ヲ認知シ其養家ヨリ實家ヘ奪還スルヲ得サルカ如キ是ナリ是レ養親ノ親權ヲ害スルノ結果ヲ來スモノニシテ身分確實ノ原則ニ反スルヲ以テナリ

**第八百三十三條** 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス

本條ハ一旦爲シタル認知ハ之レヲ取消スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ



認知ハ單獨行爲ナルヲ以テ認知者ノ自由ニ取消スコトヲ得ルカ如シト雖モ前述ノ如ク人ノ身分ハ確實ナルコトヲ要スルモノナレハナリ一旦認知シテ復タ取消スコトヲ得ルモノトモハ親子ノ關係ハ到底確定スルノ時ナキヲ以テ此原則ニ反スルニ至ラン之レ本條ノ規定スル所以ナリ

### 第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

本條ハ認知セラル可キ子及其利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得ルコトヲ定メタリ

子其他ノ利害關係人トハ現ニ認知ヲ受ク可キ子又ハ其子ノ認知セラル、ニ依リテ損害ノ關係ヲ有スル者ヲ言フナリ其子ハ其父母ナリト稱スル者ノ子ニアラサルコトヲ立證シテ反對ノ事實ヲ主張スルヲ得可シ是レ世或ハ自己ノ貧窶疾病止ムヲ得スシテ糊口ノ慾ヲ逞センカ爲メ突然他人ニ對シ事ヲ認知ニ托シ其扶助ヲ求メントスルナシトセス若如此アラハ社會ノ秩序ヲ害スルニ至ルヘシ故ニ反對ノ事實ヲ主張スルヲ得セシメタリ

認知ハ單獨行爲ナルヲ以テ認知ニヨリ損害ヲ蒙ルモノ即利害關係人ナシテ認知ノ取消ヲ請求セシムルヲ得ルヤ論ヲ俟タス

### 第八百三十五條 子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

本條ハ子及子ノ直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父母ニ對シテ認知ヲ請求スルコトヲ得ルコトヲ明ラニシタルモノナリ其直系卑屬トハ親系ヲ直下スル血族ヲ謂フモノナリ今此等ノ者ヨリ父母ニ對シ認知ヲ請求スルコトヲ得ルノ理由ヲ考フルニ自ラ進テ其子



ヲ認知スルト同シク親子ノ情誼トシテ親ノ系統ノ如何ヲ明ニセシトスルハ子及其直系卑族タルモノ、人情ニシテ又其等ノ者ノ法定代理人モ其子ヲ代表スル上ニ於テ亦當ニ之レヲ爲スコトヲ得可キモノトスルノ至當ナリトナシタル所以ナリ而シテ父又ハ母カ之ヲ認知セサルニ於テハ固ヨリ裁判所ニ其請求ヲ爲シ得ヘキモノナリト知ルヘシ

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ庶子私生子カ嫡出子トナル場合ニ關スル規定ナリ

曾テ屢々述フルカ如ク嫡出子ト其他ノ子トノ差違ハ其父母タル男女ノ間ニ正當ノ婚姻アリテ生マレタルト否トニ在リ故ニ嫡出子ニアラサル者即チ庶子又ハ私生子ト雖モ其出生後ニ至リ其父母タル男女ノ間ニ正當婚姻アリタルキハ之ニ因テ嫡出子タルノ身分ヲ取得ス而シテ庶子ハ既ニ父ノ認知スル所アルヲ以テ父母ノ婚姻ト同時ニ嫡出子タルコトヲ得ルト雖モ私生子カ嫡出子タル身分ヲ得ルニハ其父母ノ婚姻ノ外尙ホ父ノ認知ヲ要スル所以ハ父ノ認知ナキニ於テハ何レノ男ノ子ナルヤ未タ明カナラサルニ依ルナリ元來庶子ト私生子トノ別アルハ父ノ認知ノ有無ニ因ルモノニシテ私生子ハ父ノ認知カ婚姻ノ中ニアリタルトキハ其認知アルト同時ニ嫡出子トナルナリ

前二項ノ規定ハ子カ死亡シタル場合ニモ亦之ヲ準用スルモノトス



是其子ノ身屬親ヲ保護スル爲ノ規定ナリ例ヘハ子甲カ其子乙ヲ遺シテ死亡シタル場合ニ甲カ父ノ嫡出子タルト否トハ乙ノ利害ニ重大ナル關係アレハナリ

## 第二節 養子

養子トハ他人ヲ収養シテ自己ノ子ト爲シタル者ヲ謂フ養子ノ制度ニ關シテハ歐洲各國其法制チ一ニセス養子ハ我國ニ於テ往古ヨリ今日ニ至ルマテ一日モ其慣行ヲ廢セス儼然トシテ慣習的一制度ヲ成セリ德川家康百個條遺訓第四十六ニ曰ク實子ナキ者ハ豫メ養子シテ家督ヲ固ム可シ但當人十五歳以下ノ者ニハ養子ノ例ナシ(中畧)官家ハ實子ナク養子ナクシテ相果ツル者ハ親疎ニ拘ハラズ沒収ス可シ天下ハ天下ノ天下ニシテ一人ノ天下ニ非サルノ語皆聖賢ノ道ナリ然レトモ當

人幼少タルモ存命ノ内養子ヲ願フニ於テハ長年ノ者タリトモ相續申付ケテ苦シカラサル事トアリ又以テ我邦養子制度ノ一端ヲ窺クニ足ラン而シテ養子制度ノ可否ニ付テハ學者各其說ヲ異ニシ未タ遽ニ是非ヲ下ス能ハスト雖モ近世各國ノ立法例ヲ見ルニ其多數ハ養子制度ヲ認メタリ

我國ニ於テハ古來既ニ前述ノ如キ確然タル制度備ハリ且我國ハ古來社會ノ組織ハ家ヲ以テ其基礎トナシタルヲ以テ益此制度ノ必要ヲ見ル是ヲ以テ舊民法及新民法共ニ此制度ヲ採用スルニ至レリ

### 第一款 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得  
第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス



此二ヶ條ハ養親ノ身上ニ關スル養子縁組ノ必要條件ヲ定メタルモノナレハ便宜上此二ヶ條ヲ併セテ説明スヘシ  
 古來我邦ノ慣習ニ於テハ成年未滿ノ者ト雖モ養子ヲ爲スコトヲ得シモノニシテ前ニ援用セシ徳川百個條ニ當人幼少ナリト雖モ存命ノ内ニ養子ヲ願フニ於テハ長年ノ者タリト雖モ相續申付不苦事トアルカ如キ是ナリ然ルニ之レニ反シ成年タルコトヲ要スルモノトナシタルハ何ソヤ夫レ養子ノ事タル人世ノ一大事ナリ他人ヲ收養シテ自己ノ嫡出子トナシ以テ之レニ關スル百般ノ權利義務ヲ創設スルモノナレハ豈智識經驗ノ未熟ナル未成年者ノ能ク辨スル所ナラシヤ養子ノ如キハ深ク從來ノ利害ヲ商量シ身後相續ノ爲メニ行フモノニ至リテハ成年以上タルヲ要スルヤ立法上固ヨリ當然ノ規定ト言ハサルヲ得ス然ルニ或論者ハ曰ク養子ヲ爲スモノハ唯ニ成年

ニ達シタルノミナラス尙ホ一定ノ年齢ヲ定ムルヲ要スト言ヘリ佛國民法ニ於テハ養子ヲ爲スモノハ滿五十年以上及ヒ養子ヨリ十五年以上年長ナルヲ要ストセリ而シテ此等ニ對スル理由トスル所ハ養子ハ實子ナキヲ憫ムニ基ク制度ナリトノ趣旨ヨリ養親ニシテ一且養子ヲ爲シタル後若シ實子ヲ生スルアラハ養子ノ必要ナシトシ夫婦ノ春秋已ニ乏シク子ヲ學クル能ハサルノ時ニ至リ初メテ養子ヲ爲スコトヲ得タルモノトスルニ外ナラス然レトモ我國ニ於ケル制度ハ斯ノ如キ趣旨ニ基クモノニアラサルヲ以テ斯ク年齢ヲ指定スルノ要ナシ然レトモ未タ成年ニ達セサルモノナシテ隨意ニ養子ヲ爲サシムルハ危險ナルヲ以テ成年ニ達タル後ニアラサレハ縁組ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ

第八百三十八條ハ養子トナルヘキ者ヲ規定セルモノニシテ尙モ子



ト云へハ親ヨリモ年長者ナルカ如キハ自然ノ理ニ反スルモノナル  
 ナ以テ此制限ヲ設ケ又尊屬ニ至テハ縱令其年齢少ナリト雖モ之ヲ  
 養子トスルコトヲ禁セリ蓋シ他人ヲ養子トスルヨリモ其親族ヲ収  
 養スルハ殊ニ相續セシムル上ニ於テモ妥當トナスノミナラス尊屬  
 ニシテ年少ナルモノアリト雖モ之ヲ許スニ於テハ尊卑ノ倫序ヲ亂  
 シ自然ノ倫理ニ悖ルモノナルヲ以テナリ

**第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ  
 養子ト爲スコトヲ得ス但女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ  
 在ラス**

本條ハ養子ヲ爲ス場合ニ於ケル第三條件ヲ定メタリ我國古來ノ慣  
 習上養子ヲ爲スニハ養男タルト養女タルトヲ問ハス又數人ノ養子

ヲ爲スコトヲ禁セサルナリ然レトモ之ニ因テ推定家督相續人ノ利  
 益ヲ害スルコトヲ得サルモノナレハ推定家督相續人アル場合ハ更  
 ニ男子ヲ養子トナスコトヲ得サルモノト定メタリ  
 然レトモ女子ヲ養子ト爲スハ決シテ推定家督相續人ノ利益ヲ害ス  
 ルモノニアラサルノミナラス女子ヲ婚嫁セシムル便宜ノ爲メ慈善  
 憐愛ノ爲メ女子ヲ収養スルコトハ實際ニ於テ見ル所ナルヲ以テ本  
 法ニ之ヲ禁セサルナリ  
 本條ニ法定ノ推定相續人アル場合ニ限定スルハ單ニ家督相續ヲ爲  
 スヘキ者ト云へハ凡ソ子ヲ有スル者ハ更ニ養子ヲ爲スコトヲ得サ  
 ルノ結果ヲ生スルカ故ナリ又其推定相續人カ男子タル場合ニ限レ  
 ル所以ハ蓋シ女子ナルニ於テハ其利益ヲ害スルコトナカルヘケレ  
 ハナリ(第九六六條)



### 第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務

カ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

本條ハ養子縁組ノ第四條件ナリ即チ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得サルコトニ關セリ

後見人ナルモノハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又ハ其財産ニ關スル法律行為ニ付キ被後見人ヲ代表スルモノナリ故ニ若シ本條ノ禁ヲ解キ管理計算前ト雖トモ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得サルモノトモハ曩キニ後見人タル資格ニ於テ被後見人ニ對スル關係ハ忽チニシテ親ノ子ニ對スルノ關係ト爲リ勢ヲ親權又ハ戸主ノ權利ニ藉リテ後見管理ノ計算ヲ曖昧ニ付シ去ルノ場合ナシトセス斯ノ如キハ

唯タ被後見人ノ利益ヲ害スルノミナラス公益ヲ害スルノ甚シキモノナリ故ニ本條第二項ニ於テ之ヲ禁シタルナリ

然レトモ假リニ一ノ後見人甲ナル者アリテ其身後ノ計ノ爲メ遺言ヲ以テ被後見人乙ナル者ヲ養子ト爲スコトヲ遺言シ其管理計算ヲ終ヘサル中ニ死亡シタリトセンカ此場合ニ於テハ遺言養子タル可キ被後見人乙者カ承諾スルトキハ養親及ヒ養子ノ關係成立シテ其養親ノ權利義務ヲ承繼スルモ何等ノ害アル可キニアラス元來遺言ノ効力ハ遺言者ノ死後ニ於テ効力ヲ發生スルモノナレハ假令生前ニ管理計算ヲ爲サ、リシトスルモ親權又ハ戸主權ヲ濫用シテ被後見人ノ利益ヲ害スルカ如キ憂ヒアルコトナシ是レ第二項ノ規定アル所以ナリ

### 第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ



縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

本條ハ養子ニ對スル身上ノ條件ヲ規定シタルモノナリ即チ配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニアラサレハ他人ト縁組ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ明ニセリ

夫レ配偶者ハ婚姻ノ當時ニ於テ共同生存ヲ期シタルモノニシテ双方追隨シ以テ同栖互樂ノ目的ヲ有スルカ故ナリ故ニ夫又ハ婦ノ一方ガ他人ニ収養セラレントスルヤ夫又ハ婦ノ一方ト離散セサルヲ得ストセンカ婚姻當初ノ目的ヲ達スル能ハス又配偶者アル者ハ他人ニ収養セラル、コト能ハストセンカ之ヲ禁スルノ理由ナシ故ニ配偶者アルモノハ配偶者双方共ニスルニアラサレハ他人ト縁組ヲ

爲スコトヲ得ストナセリ

抑モ養子タル者ハ養親ノ親權及ヒ戶主權ニ服從シ且ツ養料供給ノ義務アルモノナレハ配偶者ノ一方カ養子トナルヤ他ノ一方ニ及ホス影響ハ實ニ大ナリトス即チ夫カ養子トナリタル場合ニ於テハ其婦ハ之レニ從ヒテ同居同栖セサル可ラサル等其一身上ニ及ホス變化ハ頗ル大ナル可ク又婦カ養子トナリタル場合ニ於テモ婦ノ行爲ヲ監視スル等ノ必要アリテ夫ノ一身上ニ及ホス變化モ又大ナリト云フ可シ是ヲ以テ配偶者ノ何レタルヲ問ハス養子トナラント欲セハ双方トモニ養子トナラサルヲ得ス夫婦養子ト稱スルモノ是ナリ此理由ト同シク養親ト爲ル者モ亦配偶者アルトキハ之カ一致ヲ爲サ、ルヘカズ蓋シ我國ノ慣習上夫婦一致スルニアラサレハ如此重大ナル事項ヲ決セサルノ風習アリ而テ此規定アルカ爲メニ夫婦各



別ノ利益ヲ害スルコトナカルヘキカ故ニ敢テ養子トナル場合ト異ナルナク夫婦一致スヘキモノトシ以テ一家ノ和親ヲ希圖セリ然レトモ其配偶者ノ一方カ他ノ一方配偶者ノ子ヲ養子ト爲ス場合ニ於テハ以上ノ規則ヲ適用セスシテ單ニ一方ノ同意ヲ得ヘキモノトセリ此是場合ニ於テハ既ニ一方ハ親子間ナルヲ以テ強テ之カ承認ヲ求ムルノ要ナキナリ

**第八百四十二條** 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

本條ハ前條第一項ノ趣旨ヲ敷衍シタルモノナリ夫婦一方カ其意思ヲ表示スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其意思ヲ表示スルコトヲ得ル夫婦ノ他ノ一方カ双方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲

スコトヲ得ルモノトナシタリ其然ル所以ハ夫婦異身同体ニシテ利害痛痒ヲ共ニスルモノナリトノ觀念ヨリ來ル所ナリ夫婦ノ一方ノ利益ハ他ノ一方モ又之ニ沐浴スルモノタリ故ニ其一方ニシテ其意思ヲ表示スルコトヲ得サルトキハ其意思ヲ表示スルコトヲ得ル一方ニ於テ夫婦双方ノ名義ヲ以テ他ト縁組ヲ爲スモ夫婦ノ觀念ト相背馳スルモノニアラサルナリ之レ本條ニ於テ配偶者ノ一方カ意思表示ヲ爲ス能ハサルトキハ其一方カ双方ノ名義ヲ以テ意思表示ヲ爲シ縁組ヲ爲スコトヲ得ルト定メタル所以ナリ

**第八百四十三條** 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得  
繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス



本條ハ養子縁組ノ第五條件ニ付テノ規定ナリ

元來養子縁組ハ一ノ法律行爲ナレハ養子カ他人ニ收養セラレニ付テハ養子トナル可キ者自身ニ於テ縁組ノ承諾ヲ爲ス可キモノタリト雖モ人十五年未滿ナルトキハ未タ知慮淺薄ニシテ身上ノ大事ヲ自ラ裁量スルコト能ハス故ニ其家ニ在ル父母ハ之レニ代ハリテ承諾ヲ與フルコトヲ得ルモノナリ子ノ大事ヲ慮リ子ノ利益ヲ企圖スルハ父タリ母タル者ノ本分タルト當時ニ子モ亦タ之レヲ父母ニ倚頼シ其ノ承諾ヲ經可キハ一家ノ平和ヲ保ツモノナリ然レトモ其父母ガ其家ニアラサルトキハ子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得サルナリ是家族制ノ然ラシムル所ニシテ兎角其家ニ同居セサル者ハ其子ノ平常ヲ知ラサレハ其子ノ爲メニ利害ヲ裁量スルノ理ニ乏シケレハナリ

然リ而シテ繼父母及ヒ嫡母カ十五年未滿ノ養子ト爲ル可キ者ニ代ハリ縁組ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スル所以ハ顧フニ血縁ナキ者ハ兎角人情ニ厚薄アルカ爲ニシテ實子ト繼子トニ依リ自然利害ヲ保護スルニ精疎アレハ濫リニ他人ノ養子ト爲スノ弊ヲ防カンカ爲ナリ故ニ親族會ノ多數ノ意見ニ問ヘシ其承諾ヲ經テ而シテ後チニ縁組ノ承諾ヲ爲スコト、ナシタルナリ然レトモ尙ホ實父母ノ場合ニ於ケルト同シク其幼者ト共ニ其家ニ在ルコトヲ必用トスルヤ言テ俟タス

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ

養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

本條ハ養子縁組ノ第六條件ナリ即チ父母アル子カ養子ヲ爲シ又ハ十五年未滿ノ子カ他人ノ養子ト爲ル場合ニ關セリ



父母アル子カ他人ヲ養子トナリ又ハ十五年未滿ノ子カ他家ニ収養セラレルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルナリ而シテ此等ノ者カ其父母ノ同意ヲ要スルハ如何ナル理由ニ基クモノナルヤト言フニ要ハ唯タ一家ノ平和ヲ期スルニ在リト雖モ又タ父タリ母タル者ハ其子ヲ愛スルノ念慮アリ又其子ノ爲メニ利害ヲ保護スルノ至情アル等ヨリ來ルモノナリ抑モ他人ヲ養子トナサンカ其養子ハ養親ノ家ニ入ル可キモノニシテ家ニ入ルニ於テハ從テ又其養子ニ養料ヲ供給セサル可ラス此ノ場合ニ於テハ養親タル我子ノ財産ハ幾分ノ減殺ヲ受ク可ク延テ其家族ニ影響スル所アラン之レニ反シテ其子カ未タ十五年未滿ナルニモ不拘他人ノ養子トナランカ此等ノ者ハ未タ思慮淺薄ニシテ自己ノ利害ヲ識別スル事能ハサルモノナレハ父母ハ其子ノ縁組ニ對シテ是非善惡ヲ鑑別スルハ當

母タリ子孫タル交情ヨリ來ル所ノ當然ノコトナリト言ハサル可ラス是レ本條ニ於テ其等ノ場合ニ於テ其同居スル父母ノ承諾ヲ要トナシタル所以ナリ同居セサル父母ノ同意ヲ要セサルコトハ前條ノ說明ノ如シ

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ

養子トシテ他家ニ入ラント欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

本條ハ前條ノ趣旨ヲ敷衍シタルモノナリ即已ニ婚姻又ハ養子縁組ニヨリ他家ニ入りタル者カ更ラニ他家ニ収養セラル、場合ニ付規定セリ

此場合ニ於テハ實家ノ父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルナリ其實家



ノ父母ノ同意ヲ要シ其姻家或ハ養家ノ父母ノ同意ヲ要セサルモノ  
 ハ其配偶者又ハ養子ニシテ已ニ其姻家或ハ養家ヲ去ルニ於テハ其  
 姻家又ハ養家ノ親族關係ヲ消滅セシムルモノナレハ親族ニアラサ  
 ル姻戚ノ父母又ハ養親ノ承諾ヲ經ルヲ要セサルヤ明ナリ之レニ反  
 シテ其家ノ父母ハ自己ノ骨肉血統ノ出ツル所ニシテ永久不滅ノ者  
 ナリ故ニ此場合ニ於テハ尙ホ實家ノ父母ノ同意ヲ要スル所以ナリ  
 然レハ妻カ夫ニ從ヒテ他家ニ入ルハ此限ニアラス其然ル所以ノモ  
 ノハ何ソヤ他ナシ妻ハ夫權ニ服從シ夫ニ追隨ス可キ性質アリ妻ノ  
 實家ノ父母ニ於テ之レヲ許否スルモ妻カ夫權ニ服從スルノ点ニ於  
 テ影響ヲ及ホス可キモノニアラス換言スレハ妻ノ實家ノ父母カ妻  
 カ夫ニ追隨シテ他家ノ養子トナルコトヲ許スモ又之ヲ許サ、ルモ  
 夫カ妻ニ對スル權利ニ消長スルモノニアラスシテ此許否ハ必竟無

用ノ事タレハナリ

第八百四十六條 第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三  
 條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條モ亦第八百四十四條ノ適用ヲ示セルモノナリ第七百七十二條  
 第二項及第三項ニ於テハ子カ婚姻ヲ爲スハ其家ニアル父母ノ同意  
 ヲ得ルコトヲ要ス可クシテ其同意ヲ與フ可キ父母ノ一方カ知レサ  
 ルトキ又ハ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示ス  
 ル能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ヲ以テ足り又ハ其父母共ニ知レ  
 サルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スル  
 コト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ル  
 コトヲ要スルナリ此等ノ規定ハ前條ノ場合ニ準用ス可キコトヲ定



メタルモノニシテ其理由ノ如キモ亦相同シキナリ故ニ茲ニ再說セ  
ス

第七百七十三條ノ規定ニ依レハ繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意  
セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ルナリ  
故ニ前條ノ場合ニ於テ其同意ヲ與フ可キ父母カ實父母ニアラス繼  
父母又ハ嫡母ニシテ子ノ養子縁組ニ同意セサリシトキハ此等ノ者  
ハ親權會ノ同意ヲ以テ或ハ養子ヲナシ或ハ養子トナルコトヲ得ル  
ナリ尙ホ本條ノ說明ニ付テハ第七百七十二條第七百七十三條ノ說  
明ヲ反覆參照ス可シ

第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁  
組ニ之ヲ準用ス

本條モ禁治産者カ養子縁組ヲ爲ス場合ニ付テハ條件及縁組ニ關ス

ル届出ノ條件ヲ規定セリ

第七百七十四條ノ規定ニ依レハ禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見  
人ノ同意ヲ得ルヲ要セストシ第七百七十五條ニ依レハ婚姻ハ之  
ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ依リテ其効力ヲ生シ又其届出ハ當事者双方  
及ヒ成年ノ証人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ  
之レヲ爲スヲ要スルナリ而シテ此二條ノ規定ハ婚姻ニ關スル法  
條ナリト雖モ婚姻ト養子トハ二者皆ナ新家族ヲ成立スル点ニ於テ  
差異アルモノニアラサレハ養子縁組ノ場合ニ其規定ヲ準用スル所  
以ナリ  
願フニ婚姻ヲ爲シ養子ヲ爲シ又ハ養子トナル等ノ事項ハ屬身酌ノ  
行爲ニシテ他人ノ代ハリヲ之レヲ行フコトヲ得可キ性質ノ行爲ニ  
アラス故ニ假令心神喪失ノ常況ニ在ル者ト雖モ後見人ノ同意ヲ得



ルヲ要ス可キモノニアラス而シテ養子ハ養子縁組ノ日ヨリ養親ノ家ニ入り養子ト養親ノ關係ハ親子ニ準スル者ナレハ其縁組アリタルコトヲ戸籍吏ニ届出テ正確ナル方法ニ於テ其關係ヲ明確ニスルノ必要アリ是レ本條ニ於テ婚姻ニ關スル第七百七十四條第七百七十五條ノ規定ヲ準用スル所以ナリ

**第八百四十八條** 養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者、養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス

本條ハ遺言養子ヲ爲シ得ルコト及ヒ遺言養子ヲ爲シタル場合ニ於

ケル届出及ヒ其届出ノ効力等ニ關セリ

己ニ反覆説明セルカ如ク元來養子ヲ爲スノ本然ノ目的タルヤ家督相續人ヲ得ルニ在ルコト多シ而シテ家督相續ノ事タル實ニ身後ノ計ヲ慮リ一家ノ永久ナル福祉ヲ得トスルノ意ニ出ツルモノダレハ其養子トナル可キ者ヲ撰擇スルニハ綿密周到ヲ要ス可キモノナリ例ヘハ爰ニ自己カ死後ノ家政ヲ統理セシムルニ満足ナル對收養者アルモ其者ト收養者トノ間ニ於テ其當時或事情ノ爲メ縁組ヲ爲スコトヲ得ス(例ヘハ第八百四十條)然ルニ自己ハ己ニ老耄シ死期正ニ垂レントスル場合ニ於テハ遺言ヲ以テ養子ト爲ス可キ者ヲ定メ以テ自己ノ家督ヲ相續セシムルモ敢テ害アル可キモノニアラス而シテ己ニ遺言養子ヲ爲シタル後其遺言者死亡シタルトキハ其遺言ヲ執行スル者養子トナル者又ハ十五年未滿ノ養子ト爲ル可キ者ニ代



ハリテ承諾ヲ與ヘタル者及ヒ成年ニ達シタル証人二人以上ヨリ遺言カ効力ヲ生シタル後即チ遺言者ノ死亡シタル後遲滯ナク縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要スルナリ然リ而シテ此等ノ者ハ其届出ヲ爲ス所以ノモノハ一ハ遺言執行者ノ本分タルト二ハ利害ノ關係ヲ有スル者タルトハ其遺言ノ正實ナルヲ確証スルトノ三個ヨリ職由スル所ナリ

所謂遲滯ナクトノ文旨實ニ茫漠タルノ感ヲキチ得スト雖モ之レヲ何日内ニ届出ツ可シト限定スルニ於テハ到底其實行ヲ見ルコト能ハサルコト多キニ居モノナレバ之ヲ單ニ遲滯ナクト規定シタル所以ナリ而シテ如何ナル程度ニ達セハ遲滯アリタルヤ否ヤハ事實ノ問題ニシテ豫斷スルコトヲ得ス以テ一事實ノ發生シタル場合ニ付テ遲滯ノ有無ヲ斷スルノ外ナシ

第二項ハ右ノ届出ノ効力ハ如何ナル時ヨリ發生スルヤチ明ニセリ右ノ届ノ効力ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リ即チ遺言カ効力ヲ生シタル日ヨリ其効力ヲ生スルモノトナシタリ

第八百四十九條 戸籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第八百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ戸籍吏カ以上ノ届出ヲ受理スルコトニ關セリ  
戸籍吏カ届出ヲ受理セシニハ第七百四十一條第一項第七百四十四條第一項及第七百五十條ノ規定ニ合ヒタルコトヲ要ス可キハ勿論前十二條ノ規定其ノ他ノ法令ニ違背セサルコトヲ認メタル後ニ受



理スルコトヲ要スルナリ而シテ其理由ノ如キハ既ニ説キタル所ニ依リ明カナルヘキナリ所謂其他ノ法令トハ國籍法、戶籍法、其他行政ノ處分ニ依ル命令等ヲ謂フナリ

以上ハ原則ナリ第七百七十六條ノ但書ハ本條ノ場合ニ於テモ尙之ヲ準用スルモノトス故ニ本條ノ場合ニ於テモ戶籍吏ガ本條第一項ノ注意ヲ爲シタルニモ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ戶籍吏ハ其届出ヲ受理ス可キモノト定タリ蓋シ同條ニ就テ其理由ヲ知ルヘキナリ

**第八百五十條** 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ日本人カ外國ニ於テ日本人間ニ縁組ヲ爲ス場合ニ付テ規定セリ

右ノ場合ニ於テハ外國ニ在ル縁組ノ當事者雙方及ヒ成年ノ証人二人以上ヨリ口頭又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツルヲ得又其効力ハ其届出ニ因テ生スルナリ若シ日本人間ニ於テ遺言養子ヲ爲ス場合ニ於テハ第八百四十八條ノ規定ヲ準用シ遺言執行者、養子ト爲ス可キ者又ハ十五年未滿ノ者ニ代ハリテ承諾ヲ與ヘタル者及成年ノ証人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ届出ツ可ク此場合ニ於テハ其届出ヲ受理ス可キ者ハ前條ノ規定ニ依ルモノトス

本條ハ第七百七十七條ト其理由ヲ同フスルヲ以テ就テ見ルヘキナリ



第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス

一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サ、ルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラルルコトナシ

本條ハ養子縁組ノ無効トナル場合及ヒ例外ノ場合ニ付テ規定セリ

第一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲スノ意思ナキトキ

此場合ニ於テ其縁組ノ無効タル所以ノモノハ何ソヤ他ナシ養子ヲ爲スノ目的ハ家督ヲ相續セシメ以テ祖先ノ祭祀ヲ繼續セシムルニアルモノナレハ其養子トナル可キ者即チ彼収養者ヲ選フヤ當然ノ事タリ例ヘハ甲者アリ乙者ノ才藝家政ヲ整理スルニ足ルノ人物ナルヲ思ヒ以テ収養セント欲シタルニ其乙者ナリト信タシルハ暗黙得ル所ナキ丙者ナリシトセンカ到底甲者カ乙者ヲ選ヒタル當初ノ目的ニ合ハサルナリ所謂其他ノ事由ニ因リ縁組ヲ爲スノ意思ナキトキトハ暴行強迫其他如何ナル事由ナルヲ問ハス尙モ當事者ニ於テ縁組ヲ爲スノ意思ナキ場合ヲ謂フモノナリ

第二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲サ、ルトキ

此場合ニ於テ其縁組ノ無効トナル所以ノモノハ本法ハ己ニ縁組ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルヲ以テ縁組成立ノ一要件トナシタルニヨリ



特ニ本條第二號ノ規定ヲ設ケ其主義ヲ貫徹スルニ在リ但シ届出ニ要スル手續上ノ條件ヲ欲キタルカ故ニ縁組ヲシテ當然無効タラシムルハ實際ノ事情ニ適セサルニ依リ特ニ第二號ノ但書ヲ以テ其例外ヲ定メテシテ這ハ第七百七十八條第二號但書即チ婚姻ノ無効ニ關スル規定ト同一ノ趣旨ニ基キタルモノナレハ今茲ニ再ヒ贅セサル可シ

**第八百五十二條 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス**

本條ハ縁組取消ノ原因ハ法律ヲ以テ特定シタルモノタルコトヲ明ニシタルモノナリ  
抑モ縁組ナル者ハ他ノ法律行爲ト異ナリ容易ニ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトセハ社會ノ大害ヲ醸生スルモノタレハ法律ハ或場合ニ

之ヲ限定シ以下七條ノ規定ニ依ルノ外其取消權ヲ認メサルモノトナシタリ而シテ此規定ハ婚姻ノ取消ヲ限定セル第七百七十九條ト同旨趣ノ規定ナリ

**第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス**

本條ハ未成年者カ養子ヲ爲シタル場合ニ於ケル縁組ノ取消ニ關スル規定ナリ

第八百三十七條ニ依レハ成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得トアリ蓋シ前述ノ如ク養子ヲ爲ス目的ハ其家督ヲ相續セシメ祖先ノ祭祀ヲシテ斷絶セシメサランカ爲メニスルモノナレハ其一身一



家ニ取リテハ實ニ重大ノ事ト云フ可シ故ニ未成年者ノ如キ思慮ノ未タ定マラサル者ノ爲シタル養子ハ或ハ其撰擇ヲ誤ルガ如キ危険無シトセス之レ本條ノ取消ヲ規定セル所以ナリ畢竟未成年者ヲ保護スルノ旨趣ニ出テタルモノナリ而テ此場合ニ於ケル取消權者ハ縁組ヲ爲シタル未成年ノ養親又ハ其法定代理人ニシテ之ヲ裁判所ニ請求シ其取消ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ右ノ場合ニ於テ廣ク取消ノ請求權者ヲ認ムルハ其必要ナキノミナラス却テ妥當ヲ缺クノ虞アルニ依リ之ヲ養親及ヒ其法定代理人ニ限定セリ而シテ養親カ己ニ成年ニ達シタル後其取消ヲ得可キ縁組ヲ追認シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタル時ハ此取消權ハ消滅スルモノナリ是レ成年ニ達シテ後追認ヲナシタル時ハ最早取消ノ原因消滅シタルモノナレハ別ニ啾々スルノ要ナシト雖モ六ヶ月間ヲ經過シタルニヨリ取消權消滅

スル所以ノモノハ蓋シ六ヶ月間モ其取消權ヲ行ハサルトキハ多クノ場合ニ於テ之ヲ追認セシモノト認ムヘクヤ且ツ不確定ナル縁組ヲシテ早ク確定セシムルノ必要アルトニ依ルナリ之レ本條但書ニ於テ例外ノ規定アル所以ナリ

**第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得**

本條ハ年長者又ハ尊屬親ヲ養子ト爲シ或ハ推定家督相續人アル者カ男子ヲ養子ト爲シタル場合ニ於ケル縁組取消ニ關スル規定ナリ此等ノ場合ハ其縁組タル公益ニ害アルモノタルコトハ既ニ前ニ説明セシ所ナリ故ニ其取消權ハ時日ノ經過及ヒ追認ニ依テ決シテ消滅スルモノニアラス又此場合ニ取消權ヲ主張シ得ル者ハ各當事者



其戸主又ハ親族ニシテ此等ノ者ヨリ裁判所へ請求シテ以テ其縁組ヲ取消シ得可キモノトセリ蓋シ取消權者ノ範圍ヲ廣クセシハ是又公益ニ關係アレハ法律ハ可成之カ取消ヲ希望スルモノナレハナリ

第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其効ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

本條ハ後見人カ被後見人ヲ養子トナシタル場合又ハ後見人カ管理ノ計算ヲ終ハラサル間ニ被後見人ヲ養子ト爲シタル場合ニ於ケル縁組ノ取消ニ關スル規定ナリ

舊民情人事編ニ於テハ此場合ニ於ケル取消權ヲ被後見人ニノミ之ヲ與ヘタリト雖モ本法ハ此取消權ヲ適當ニ擴張シ其實方ノ親權ニモ此取消權アルコトヲ認ムルヲ至當トシタリ

第二項ニ於テ追認ハ養子カ完全ナル判斷力ヲ有スルトキニ之ヲ爲スニアラサレハ其効ナキモノトセリ若シ成年ニ達セサルカ又ハ能力ヲ回復セサル内ニ之ヲ追認スルモ決シテ完全ノ法律行爲ニ非ルヤ明カナリ又第三項ニ於テハ取消又ハ追認ノ期間ヲ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタルトキトヨリ起算シテ六ヶ月間ト爲シタリ此等立法者ノ意思タルヤ共ニ縁組ヲシテ自由承諾ニ基カシメ後



見人ノ勢力濫用ヲ防止スルノ主旨ニ出タルモノナリ

第八百五十六條 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ナササリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス

本條ハ配偶者アル者カ配偶者ト一致セスシテ縁組ヲ爲シタル場合ニ於ケル取消權ニ關スル規定ナリ

此場合ニ於ケル取消權ノ主張者ハ縁組ノ當時同意ヲ爲サ、リシ配偶者ニシテ此配偶者ハ之ヲ裁判所ニ訴ヘ其取消ヲ請求ス可キモノトナセリ但シ此取消權ヲ主張スル配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做セリ何カ故ニ六ヶ月ヲ經過シタル後ハ追認シタルモノト看做スヤト

云フニ己ニ縁組ヲ爲シタル事實アルコトヲ知リナカラ六ヶ月間ノ久シキニ渉ルモ之レガ取消ヲ請求セサルハ取消權主張者ニ於テ其縁組ヲ取消スノ意思ナク却テ其縁組ヲ保続セシムルノ意思アルモノト見ルコトヲ得可ケレバナリ之レ本條ニ於テ追認シタルモノト看做シテ反証ヲ許サ、ル所以ナリ

第八百五十七條 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ父母其他ノ者ノ同意ナクシテ成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子トナリタル場合ニ於ケル縁組ノ取消ニ關ス



ル規定ナリ

父母ハ縁組ニ對シテ同意ヲ與ヘ又ハ成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子トナルニハ父母ノ同意ヲ得サルヘカラザルハ既ニ前述セシ所ナリ故ニ若シ此等ノ要素ヲ具ヘサルトキハ之ヲ取消シ得可キヤ言ヲ待タスト雖モ其取消シハ縁組當事者ヨリ之ヲ主張ス可キモノニアラスシテ此場合ニ於ケル縁組ノ取消ハ同意ヲ爲スノ權利ヲ有スル者ヨリ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノト定メタリ尙ホ一旦父母ニシテ縁組ニ同意ヲ與ヘタリト雖モ其同意カ詐欺又ハ強迫ニ依リテ爲サレタルモ亦同シキナリ其他本條ノ取消權消滅ニ付テハ婚姻ノ取消權ニ關スル第六百八十四條ノ規定ヲ準用セラレ、モノナレハ相對照シテ參照セハ其理由自ラ明瞭ナル可シト信ス故ニ茲ニハ其說明ヲ畧ス

第八百五十八條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知りタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

本條ハ婚姻ノ無効又ハ取消カ縁組ノ取消原因タルコトヲ得ル場合ニ關スルモノトス

婿養子縁組ナルモノハ一方ニ於テハ普通縁組ノ性質ヲ有シ而シテ其効果ハ夫婦ノ關係ヲ生スルト同時ニ養家ニ於テ親子ノ關係ヲ生スルモノナリ婿養子縁組ノ場合ニ於テハ婚姻ハ縁組ノ要件タルカ



如キモノナレハ若シ其婚姻カ無効又ハ取消ニ既シタルトキハ婚養子縁組ノ本旨ニ悖戾スルニ至ラン故ニ此場合ニ於テハ縁組ヲモ取消スコトヲ得セシムルヲ以テ至當ノ事ニ屬スト雖モ亦タ婚姻ノ無効又ハ取消ハ當然縁組ヲ取消サシム可キモノニアラス却テ實際上婚姻ノ如何ニ拘ハラス縁組ヲ保續スル場合抄シトセサルニ依リ之ヲ當事者ノ意思ニ任カセタリ

又以上述フル所ニ依レハ婚養子縁組ノ場合ニ於テハ婚姻ノ無効又ハ取消ニ依リ縁組ノ取消權ヲ生スルニ止ムト雖モ單ニ以上ノ明文ノミニテハ或ハ婚姻ノ無効又ハ取消ト縁組取消ノ請求トハ各別個ニ提起セサル可ラサルヤノ疑ヲ生スル虞アルヲ以テ本條第一項但書ニ於テ婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ付帶シテ縁組取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ明示シ以テ此等ノ疑ナカラシメタリ

舊民法人事編ニ於テハ前項ノ取消權ハ婚姻ノ無効又ハ取消トナリタルヨリ三ヶ月ヲ經過スルニ依リ其取消權ヲ失フ可キモノトナシタリト雖モ當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノアリタルコトヲ知ラサルコトモ間々アル所ナレバ本法ハ當事者ニ於テ此無効又ハ取消ノアリタルコトヲ知リタルトキヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス可キモノトナシタリ其之ヲ六ヶ月ト限定シタルハ蓋シ立法者ガ適當ノ期間ト認メタルニ依ル

**第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス**

本條ハ詐欺又ハ強迫ニ依リテ爲シタル縁組ノ取消及ヒ一般ニ縁組取消ノ効果ニ關スル規定ナリ此場合ニ於テハ第七百八十五條ノ規



定ニ依リ詐欺又ハ強迫ニ依リ縁組ヲ爲シタル者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトセリ但シ詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル後チ六ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ其取消權ハ消滅スルモノナリ

本條ニ於テ第七百八十七條ノ規定ハ之ヲ縁組ニ準用ストセリ故ニ縁組ノ取消ノ効力ハ之ヲ已往ニ遡ラシメス又縁組ノ當時其取消ノ原因アルトチ知ラスシテ當事者カ縁組ニヨリテ財産ヲ取得シタルトキハ其利益ヲ受クル限度ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ要シ又縁組ノ當時取消ノ原因アルコトヲ知リタル當事者ハ縁組ニ由リ得タル利益ノ全部ヲ返還シ尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之レニ對シテ損害賠償ノ責ヲ負フ可キモノナリ詳悉ハ第七百八十五條第七百八十七條等ノ説明ヲ反省セハ明瞭ナル可キニヨリ茲ニ故ラニ之ヲ再

說セサル可シ

### 第三款 縁組ノ効力

#### 第八百六十條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス

本條ハ養子縁組ノ第一ノ効力ヲ規定シタルモノナリ  
 元來養子ハ養親ニ對シ自然ノ血族關係アルニ非ス所謂法定血族タルニ過ギザルハ前述ノ如シ即チ養子ハ縁組ニ由リテ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ爰ニ親子ノ關係ヲ生シ總テ養親ノ親族ト總テノ親族關係ヲ生スルハ我國古來ノ慣例ニシテ而シテ其効力ハ縁組ノ日ヨリ發生シ縁組以前ニ遡及効ヲ生セザルコトハ一般ノ認ムル所ナリ如此養子ハ縁組ノ日ヨリ養家ニ於テ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノナレハ假令養親ノ實子ヨリ年長者ナリト雖モ尙ホ家督相續ノ



場合ニ於テハ實子ノ次ニ位スヘキモノトス(第九百七十五條第二項)夫レ養子ハ養家ニ於テ自然ノ親族タルト同一ノ身分ヲ取得スルモノナルヲ以テ養料ノ義務ヲ負擔シ又ハ養家ノ氏ヲ冒シ又ハ養家ニ於テ家督相續及ヒ遺産相續ノ權ヲ獲得スル等ノ効果ヲ生スルハ勿論ノ事ナリ

### 第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル

本條ハ前條ト同シク養子縁組ノ第二ノ効力ヲ規定シタルモノナリ「縁組ニ由リテ養子ト養親トノ間ニ親子ノ關係ヲ生スルモ養子ハ之レカ爲メ當然養家ニ入ルモノニアラス尙ホ實家ニ其籍ヲ存スト爲スノ立法例少カラサルニ由リ本法ニ於テハ特ニ本條ヲ明示シ以テ養子ハ縁組ニヨリテ當然養親ノ家ニ入ルヘキモノタルコトヲ明示シ之レニ依リテ我國古來ノ慣例及ビ縁組ニ關スル本旨ニ適セシメ

タリ

抑モ養子カ養親ノ家ニ入ル所以ノモノハ祖先ノ祭祀ヲ絶ヘサラシムル目的ニテ所謂家族制ヲ維持スルニ必要ナル事項タリ既ニ養家ニ入ル以上ハ其家ノ氏ヲ冒シ其家ニ於ケル身分待遇等ヲ受ク可キハ當然ノ結果ナリ此事タル我國古來ノ慣例ニシテ縁組ノ効力中最モ重要視ス可キモノナリ茲ヲ以テ本條ノ規定アル所以ナリ

### 第四款 離 縁

養子縁組ハ養子ヲ爲シタル者ト養子トナリタル者トノ協議ヲ以テ親族ノ關係ヲ生セシメタル者ニシテ其當初ノ目的ヨリ之ヲ見レハ永久其關係ヲ解消スヘカラサルカ如シト雖モ時勢ノ變遷人情ノ反覆後日ニ至リ種々ノ事情ヲ發生シテ永ク親子ノ關係ヲ保續スル能ハサルコ



トアリ若シ此等ノ場合ニ於テモ尙且離縁ヲ許サス法律上其關係ヲ解ク能ハストセンカ當事者双方ノ利益ヲ害スルノミナラス延ヒテ一家及一國ノ風俗秩序ヲ破ルニ至ルハ必然ノ勢ナリ此故ニ斯カル惡縁ニ陥リタルモノハ之ヲ解キテ亦他ニ良縁ヲ結フノ自由ヲ與ヘサルヘカラス是レ本款ノ規定アル所以ナリ而シテ養子離縁モ亦離婚ノ場合ト同シク協議上ノ離縁ト裁判上ノ離縁トアリ何レモ本款ノ中ニ規定セラルト雖モ其立法上ノ理由及適用スヘキ法規ニ至リテハ離婚ノ場合ト大同小異ニシテ特ニ説明ヲ要スルモノ誠ニ尠ナシ宜シク第三章第四節ヲ參照シテ研究スルヲ便宜トス

**第八百六十二條** 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ

縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主

ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ協議上ノ離縁ニ關スル規定ニシテ養子ヲ爲シタル者及養子ト爲リタル者ハ其協議ヲ以テ自由ニ離縁ヲ爲スコトヲ得ヘシ蓋シ養子縁組ハ元來當事者ノ協議ヲ以テ成セシモノナレハ離縁ヲナスニモ又協議上妨ケナキモノトスルハ道理ニ適スルノミナラス我國ノ慣例ニモ一致スルモノナレハナリ然レトモ養子ニシテ離縁ノ當時十五年未滿ナル時ハ離縁ノ協議ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者ト養親トノ間ニ於テ爲スヘキモノトス養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トハ第八百四十三條ニ規定スル所ニシテ即チ養子ノ實家ニ在ル父母ナリ(繼父母又ハ嫡母ハ



親族會ノ同意ヲ得テ承諾ヲナス權アルモノトス又養親ニ於テ死亡シタル時ハ養子ハ之ト協議スル能ハサルヲ以テ唯養家ノ戸主ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ養子ニシテ戸主トナリタル上ハ最早離縁ヲナスコト能ハサルヲ以テ本條第三項ハ養子カ戸主トナラサル場合ニ於テノミ其適用ヲ見ルヘキモノトス

第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
第七百七十二條第二項第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ婚姻ノ章ニ於ケル第八百九條ノ規定ト同一ノ趣旨ニシテ即チ廿五年未滿ノモノカ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ

同意ヲ得ルヲ要スルナリ養子ハ十五年以上ニ至レハ自己ノ自由ナル意志ヲ以テ縁組又ハ離縁ノ協議ヲ爲スコトヲ得ルモ此等ノ協議ハ其終生ノ浮沈ニ影響スル所尠カラサルヲ以テ或年齡ニ達スル迄ハ凡テ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得サレハ之ヲ決行スルコトヲ許サ、ルナリ養子ヲ爲ス者ト雖モ亦同シ此年齡ハ即チ滿二十五年トス此故ニ二十五年以上ノ者ハ養子ト雖モ其父母ノ同意ヲ得スシテ自由ニ其協議ヲ決行シ離縁スルコトヲ得ヘシ是レ此年齡ニ達スレハ人ハ自己ノ禍福ニ關スル充分ノ熟慮ヲ爲シ得ベク却テ其當事者ニ非ル父母カ徒ラニ我子ノ愛着ニ牽カサレテ終生ノ方針ヲ誤ルカ如キコトアルヘキヲ以テナリ然レトモ滿二十五年ニ至ラサル者ト雖モ父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意志ヲ表示スル能ハサル等ノ事情アルトキハ他ノ一方即チ父



ナリ母ナリ差支ナキモノ、同意ノミニテ足ルコト又若シ父母共ニ此等ノ事情アリテ其同意ヲ得ル能ハサルトキハ未成年者ナレハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ要スルコト又繼父母嫡母カ子ノ離縁ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ爲シ得ヘキコトハ婚姻離婚ノ場合ト異ナルコトナシ是レ本條第二項ノ規定スル所ナリ

第八百六十四條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス

本條モ亦婚姻ノ章ニ於ケル第八百十條ノ規定ト同一ニシテ別ニ説明スヘキモノナシ即チ第七百七十四條ハ禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルヲ要セサルコトヲ定メ第七百七十五條ハ婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生スルコト又其届出ハ當事者双方及成年ノ証人二人以上ヨリ口頭又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ要スルコトヲ定メタルモノナリ此等ノ規定ハ離縁ノ場合ニモ之ヲ準用スヘキヲ以テ此等ノ條ニ婚姻トアル文字ヲ離縁ト更メ看レハ可ナリ

第八百六十五條 戸籍吏ハ離縁カ第七百七十五條第二項、第八百六十二條及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケララルルコトナシ  
本條モ亦婚姻ノ章ニ於ケル第八百十一條ノ規定ト略ホ同一ニシテ同條ノ説明ヲ以テ足ル即チ第一項ハ戸籍吏ノ遵行スヘキモノニシテ離縁ノ届出ハ第七百七十五條第二項ニ定メタル方式第八百六十



二條第八百六十三條ノ當事者父母又ハ戶主ノ同意ヲ得ルノ規定其他ノ法令ニ違反セサル届出ニ依レハ之ヲ受理スヘカラサルナリ然レトモ戶籍吏カ此規定ニ違反シテ其届出ヲ受理シタルトキト雖モ之レカ爲メニ離縁ノ効力ヲ妨ケラレ、コトナキナリ

第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限り離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ

リタルトキ

- 六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ
- 七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
- 八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

本條ハ裁判上ノ離縁ニ關スル規定ニシテ之ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ列舉セリ是亦婚姻ノ章ニ於ケル第八百十三條ト同シク制限的ノ規定ニシテ決シテ他ノ場合ニ類推スルヲ許サス左ノ場合ニ限り云々トアルハ之ヲ意味スルナリ蓋シ離縁ナルモノハ一旦成立シタル親族



ノ關係ヲ解消スルモノニシテ事体頗ル重大ナリ若シ夫レ協議ノ離縁ニ至リテハ事當事者双方ノ自由意思ニ出ツルモノナルヲ以テ法律ハ強テ之ニ干涉スルノ要ナク容易ニ之ヲ認許スヘキモ裁判上ノ離縁ニ至リテハ大ニ之ニ異ナリ其一方ノ請求ニ依リテ他ノ一方ノ意思如何ヲ問ハス之ニ離縁ヲ命スルモノナレハ容易ニ之ヲ許スヘキニ非ス是レ本條特ニ其場合ヲ列舉シテ此場合以外ニハ裁判上ノ離縁ヲ請求スル能ハサルコト、定メタル所以ナリ此事タル離婚ノ場合ト同一ニシテ其原因ノ何タルヤモ略相似タレトモ亦異ナル点モナキニ非ズ故ニ以下少シク説明ヲ加ヘントス

一、他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキハ如何ナル虐待又ハ侮辱ヲ以テ離縁請求ノ原因トナスニ足ルカノ問題ニシテ其程度ハ縁組當事者双方ノ位置、身分、年齢、教育、資産等

其身邊ヲ圍繞スル諸般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ判斷スヘキモノトス此故ニ高貴ノ身分アル者ニ對シ謂レナキ罵詈惡口ヲ爲シテ重大ナル侮辱ト爲ルモ卑賤ノ位地ニ在ルモノニ對シテハ之ヲ重大ナル侮辱ト爲スニ足ラサルモノアリ赤貧洗フ如キ家ノ養子が困苦ノ間ニ充分ナル衣食ヲ養親ニ供スル能ハサルモ以テ虐待トスヘカラス然レトモ富裕餘財アル身ガ寒冷ノ時季ニ際シテ養子ノ温袍ヲ剝キ三食ヲ減スルカ如キニ至リテハ之ヲ虐待トセサルヘカラス蓋シ虐待トハ名譽信用ニ關スルモノニシテ身體自由ニ關スルノ所爲侮辱トハ名譽信用ニ關スルモノニシテ舊民法人事編ニハ暴虐脅迫又ハ重大ナル侮辱トノ文字ヲ用ヒタリ此故ニ養親ガ奢侈放蕩ニシテ資産ヲ浪費シ家政ヲ紊亂スル等ノ所爲ハ如何ニ養子ノ心中ニ痛苦ヲ與フルモ以テ虐待



又ハ侮辱ト爲スヘカラス又此侮辱ハ重大ナルモノナラサルヘカラス是レ虐待ト異ナリ輕微些末ナル侮辱ノ如キハ一家團樂嬉々談笑ノ間ニモ亦絶無ノコトニ非ス以テ一家ノ和合親愛ヲ破ルニ足ラサレハナリ

二、他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキトハ是亦事實ノ問題ニシテ當事者双方ノ事情ヲ斟酌シテ果シテ惡意ヲ以テ遺棄シタルモノナリヤ又ハ萬不得止ノ事情ニ出テタルモノナルヤヲ判斷セサルヘカラス茲ニ所謂遺棄トハ刑法ニ所謂遺棄ヨリ其意味稍廣クシテ遺棄セラレタルモノカ遺棄者ノ保護又ハ養育ヲ受ケサレハ生活シ能ハサル場合ニ限ラス單ニ養親又ハ養子カ他ノ一方ヲ其家ニ置去リニシテ願ニス又ハ之ヲ家外ニ逐フテ入ラシメサル等ノ所爲ヲモ之ヲ遺棄トスヘキナリ此

等ノ所爲アリト雖モ若シ正當ノ理由アリテ例ヘハ遠國ヘ行商ノ爲メ永ク其家ヲ離レ或ハ他ノ病狀ニ依リ醫師ノ勸告ニ從フテ入院又ハ轉地療養スルカ如キモノハ決シテ惡意アルニ非ルヲ以テ本條離縁ノ原因トハ爲ラサルナリ

三、養子ハ假令其養親ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケサルモ養親ノ直系尊屬即チ父母又ハ祖父母ヨリ此等ノ虐待又ハ侮辱ヲ受ケタルトキハ永ク其家ニ留マル能ハサルノ感ヲ生スルハ普通ノ人情ニシテ第一ノ場合ト異ナル所ナキヲ以テ本條亦之ヲ離縁請求ノ一原因トナスコトヲ許セリ爰ニ注意スヘキハ本號ニハ直系尊屬トアル故ニ亦夫ノ舊民法ノ如ク傍系ノ尊屬ヲ包含セサルナリ

四、舊民法人事編ニハ此原因ヲ重罪及ヒ竊盜又ハ詐欺取財ノ罪



ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑トシ又離婚ノ章ニ於テモ其犯罪ノ種類ヲ列擧シ其以外ノ罪ニ因ル處刑ハ離婚ノ原因ト爲ラサルノ規定ナリシモ本條ハ之ニ反シ八百十三條ノ離婚ノ場合ト同シク如何ナル性質ノ犯罪タルヲ問ハス重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトハ他ノ一方ハ之ヲ原因トシテ離婚ノ請求ヲ爲シ得ヘシトセリ但シ離婚ニハ三年以上ノ處刑ノ場合トセリ蓋シ處刑カ他ノ一方ニ及ホス影響ハ第一號ニ規定セル重大ナル侮辱ト異ナル所ナシトスルヲ以テナリ

五、養子ニ家名ヲ瀆シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アルタルトキハ養親ヨリ離婚ヲ請求シ得ヘキハ勿論ニシテ家名ヲ尊重シ家産ヲ保護スルハ其家ヲ永遠安全ニ護持スルニ於テ尤モ必要ナリトス舊民法人事編ハ單ニ浪費ト規定シタルヲ以テ養

子カ單ニ自己ノ特有財産ヲ浪費シタル場合ノ如キモ離婚ノ原因タルヘキカヲ疑ハシメタリ之ヲ以テ本條ニ於テ之ヲ限縮シ以テ家産ヲ傾クヘキ場合ニ限定シ且家名ヲ瀆スヘキ場合ヲ補充セリ故ニ例ヘハ人ノ賤ムヘキ營業ヲ爲シ其他不熟練ナル投機事業ニ因リテ失敗スルカ如キハ皆本號ノ包含スル所ナリト知ル可シ

六、養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキハ假令其死亡セサルコト明白ナル場合ニ於テモ離婚ノ原因ト爲ルヘシ蓋シ此ノ如キモノヲシテ親子ノ關係ヲ永續セシメントセハ却テ社會ノ道德ヲ破ルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ實際ノ慣例ヲ斟酌シテ以テ離婚ノ原因ト認メタルナリ

七、養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトハ例ヘハ戰爭ニ出



テ或ハ航海中颶風ニ遭フテ漂流シ爾后三年ヲ經過スルモ絶テ音信ナキ場合ノ如キナリ此規定ハ本法第三十條失踪ノ規定ト同精神ニ出テタルモノニシテ三年間ノ久シキ生死不分明ナルモノヲシテ尙且養子ト成シ置クヘキモノトスルハ縁組ノ當初ノ精神ニモ背戾スヘキヲ以テ養親ハ此ノ如キ頼ムニ足ラサルモノハ之ヲ離縁シ以テ更ニ他ヨリ養子ヲ迎フルノ必要アルヘキヲ以テ本號ニ於テ之ヲ離縁ノ原因ト認メタル所以ナリ

八、他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ亦離縁請求ノ原因ト爲ル蓋シ此ノ如キ場合ニ於テハ其者ト親子ノ關係ヲ維持シ能ハサルハ他ノ虐待又ハ侮辱ノ場合ト同シク寧ロ事情ニ依リテハ自己ノ身ニ之ヲ受タルヨリモ一層ノ痛苦ヲ覺ユル場合アルヘキヲ以テ

ナリ

九、婿養子縁組ノ場合又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ハ婚姻ト縁組ト二個ノ關係成立スルヲ以テ若シ其一方ナル婚姻ノ關係消滅シタルトキハ養子モ其家ニ留マリ難ク養親タル者モ亦之ヲ留メ難キ感情ノ起ルハ止ムヲ得サルヲ以テ是等ノ場合ニ離縁請求ヲ許スハ猶婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルト其理由同一ナリ

第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ第八百八十三條第一項第八百六十二條第二項ト同精神ノ規定ニシテ養子カ滿十五年以下ナルトキ若シ前條ノ原因アルニ於テ



ハ其實家ノ父母ハ養子ニ代リテ養親ニ對シ離縁請求ノ訴ヲ爲シ得ヘシ何トナレハ養子カ十五年未滿ノ場合ニ於テハ縁組ノ承諾モ亦其父母代リテ之ヲ爲スモノナレハ其關係ヲ解消スル離縁ノ請求ニ就テモ此權アルハ當然ナレハナリ然レトモ此者カ繼父母又ハ嫡母タルトキハ親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ爲サ、ルヘカラサルハ第八百四十三條第二項ト同シ又本條ニ依リ父母カ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキ場合ハ若シ養子カ滿十五年以上ナルニ於テハ當然自己ヨリ訴訟ヲ提起シ得ヘキ場合即チ前條ニ掲ケタル原因ニ基カサルヘカラス何トナレハ父母ニ此訴訟提起ノ權アルハ幼年ナル養子ニ代リテ其利益ヲ保護スルモノナレハ養子ニ於テ訴訟ヲ提起シ得サル場合ハ父母ニ於テ亦此權ナキヤ明ナレハナリ

第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ

當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

本條ハ第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方即チ訴訟提起ノ權アルモノカ他ノ一方ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ茲ニ訴訟提起ノ權ハ消滅シテ其後ニ至リ訴ヲ起スヲ得サルニ至ルヘキコトヲ規定シタリ夫レ此ノ如キ非行ハ素ヨリ純正潔白ナル他ノ當事者ニ痛苦ヲ與ヘ又ハ家名家産ニ瑕疵ヲ生セシムルモノニシテ到底一家ノ和樂ト維持トヲ望ムヘカラサルヲ以テ法律ハ永ク親子ノ關係ヲ持續セヨト強エルニ忍ビズ之ヲ離縁シ得ヘシト定メタルモ抑モ亦離縁ナルモノハ國家ノ秩序ヨリ見ルモ社會ノ道德ヨリ謂フモ決シテ望ムヘキコトニ非ス此故ニ此ノ如キ非行アルモ當事者ノ一方カ一旦之ヲ宥恕シタルニ於テハ最早離縁請求ノ權利ヲ



拋棄シタルモノナレハ後日ニ至リ或不滿ノ事情等ヨリ前已ニ宥恕シタル非行ヲ理由トシテ離縁ヲ請求スルカ如キコトヲ得サラシム若シ此ノ如クセサレハ非行ヲ爲シタル當事者ハ一旦宥恕セラレタルニモ係ハラズ何時離縁ヲ請求セラル、哉モ知レサルヲ以テ常ニ戰々競々トシテ其堵ニ安ンセサルノ憂アレハナリ

第八百六十九條 第八百六十六條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

養親又ハ養子ノ一方ガ罪ヲ犯シテ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ

タル場合ノ如キハ他ノ無垢清淨ナル一方ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルト同シク離縁請求ノ原因ト爲ルヘキハ第八百六十六條第四號ニ規定シタル所ナリト雖モ若シ其一方ニ於テモ亦其處刑ヲ受ケタル行爲ニ同意シタルトキハ法律ハ離縁ノ訴ヲ許サストセリ何トナレハ是レ自ラ招キタルノ耻辱ト同シク決シテ他ノ一方ヨリ侮辱ヲ受ケタルモノト云フヲ得サレハナリ又自己ニ於テ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルモノハ他ノ一方ガ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルヲ理由トシテ離縁ヲ請求スルヲ許サ、ルハ無疵無瑕ノ人ニ非ルモノカ他ノ刑罰ノ爲メ侮辱ヲ受クルト云フノ理ナキヲ以テナリ茲ニ所謂同意トハ共犯ニ依リ一年以下ノ刑ニ處セラレタル如キ場合ハ勿論罪ヲ犯スコトヲ知テ之ヲ贊成シ又ハ罪ヲ犯スヲ知リ乍ラ之ヲ制止セサル如キ消極的ノモノモ亦同意ト云ハサルヘカラス



第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

本條ハ婚姻ノ章ニ於ケル第八百十六條ト全ク同規定ニシテ離縁ノ訴訟提起ノ期間ヲ定メタルモノナリ即チ第八百六十六條第一號ヨリ第五號及ヒ第八號ノ事實アルトキハ之ニ因テ離縁ノ訴ヲ起サントスル者カ其事實ヲ知リタル時ヨリ起算シテ一年ノ内ニ出訴セサルヘカラス例セハ養子カ家名ヲ續シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルモ養親ハ養子ト別居シテ遠方ニ在リタルカ爲メ數年間此事實ヲ知ラザリシ場合ノ如キ之ヲ知リタルトキヨリ一年ノ期

間内ニ出訴セサレハ其後ニ至リ之ヲ提起スルヲ得ス併シ乍ラ假令之ヲ知リタルヨリ一年ヲ經過セサル間ト雖モ其事實アリタル時ヨリ十年ヲ經過シタル後ハ如何ナル場合ト雖モ出訴ヲ許サ、ルナリ蓋シ縁組チシテ永ク不確定ノ地位ニアラシムルハ當事者ハ勿論社會ノ公益ニ害アレハナリ

第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ起スニハ出訴ノ當時尙復歸セサレバ議論ナキモ若シ四年或ハ五年ヲ經テ復歸シタル後養親ヨリ離縁ノ訴ヲ起スニハ其養親カ養子ノ



復歸シタルコトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過セサル間ニ之ヲ爲ス  
 ナ要ス若シ之ヲ知リタルヨリ一年ヲ經過シ又ハ知ラサルモ事實復  
 歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後ハ前條ト同ク起訴ノ權ナキモノ  
 トス之カ理由ハ前條ニ同シ

第八百七十二條 第八百六十六條第七號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ

養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起  
 スルハ起訴ノ當時尙引續キテ生死不分明ナルヲ要ス假令三年以上  
 分明ナラサリシトモ其後ニ至リテ生死ノ分明シタルトキハ第八百  
 六十六條第八號ノ原因ハ已ニ消滅シタルモノナルヲ以テ最早離縁  
 ノ訴ヲ提起スルノ必要ヲ免サレハナリ

第八百七十三條 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚

姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離縁ノ請求ヲ爲ス  
 コトヲ得

第八百六十六條第九號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ當事者カ離婚  
 又ハ婚姻ノ取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又  
 ハ離縁請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得  
 ス

本條第一項ハ第八百六十六條第九號ノ原因ニヨリ離婚又ハ婚姻ノ  
 取消アリタルヲ理由トシテ離縁ヲ爲サントスル場合ハ離婚又ハ婚  
 姻取消ノ訴訟ニ附帶シテ離縁ノ請求ヲ爲シ得ル規定ニシテ裁判上  
 ノ便宜ニ出テタルモノナリ又第二項ハ離婚又ハ婚姻取消ノ訴訟ニ  
 附帶セシテ獨立ノ離縁請求ヲ爲スヘキ期限ヲ定メタルモノニシ  
 テ之ヲ爲スニハ離婚又ハ婚姻取消アリタルコトヲ知リタルヨリ六



ケ月ヲ經過シ又ハ一旦離縁請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ假令六ケ月ノ期間内ト雖モ之ヲ提起スルコトヲ得サルモノニシテ婚姻ノ章ニ於ケル第八百十八條ト全ク同一ノ規定ナリ唯離縁ヲ原因トシテ離婚ヲ請求スルハ三ケ月ニシテ本條ハ六ケ月ノ差アルノミ是レ妻ハ夫ト同居ノ義務ヲ有シ其關係密接ナルヲ以テ短少ノ期間ト雖モ無事ニ經過スルハ以テ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルモノト推測シ得ヘキモ養子ノ如キハ亦聊カ其關係ニ輕重アルヘキヲ以テナリ

第八百七十四條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離縁ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

本條ハ如何ナル場合ト雖モ養子離縁ヲ爲スコトヲ得サル規定ニシテ養子カ一旦戸主ト爲リタル後ハ假令第八百六十六條ニ規定シタル事由アルモ養親ハ之ニ對シ離縁ノ請求ヲ爲シ得サルノミナラス

養子自身ニ於テモ亦離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ノコトナリ加之之カ法意ヲ探クルニ本條ハ協議上ノ離縁ニモ亦適用スヘキモノニシテ已ニ戸主ト爲リタル養子ハ其養親トノ協議ニ因ルモ離縁スルヲ得サルナリ蓋シ我民法ハ屢々説明スル如ク一面ニハ家族制度ノ主義ヲ採用シタルモノニシテ戸主タルモノハ第二章ニ規定セル諸種ノ義務ヲ有シ戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負ヒ又家族ガ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得サルヘカラスル如ク一家ノ興廢舉ケテ戸主ノ掌理ニ在リ假令養親ト雖モ隱居ニ依リテ戸主ヲ養子ニ譲リタル後ハ婚姻又ハ縁組ヲ爲スニハ必ず戸主ナル養子ノ同意ヲ得サルヘカラス夫レ此ノ如ク重大ナル權利ヲ有スル戸主ニシテ尙ホ離縁セラル、如キコトアラハ家族制度ノ基礎ハ頗ル薄弱ニシテ戸主ノ重大ナル權利ト撞着スルヲ免レヌ養



子ニ於テモ亦此ノ如キ堅確ナラサル地位ニ甘シテ一家ニ對スル責任ヲ充分ニ盡サンコトハ甚タ難キ所タレハ一旦戸主ト爲リタル後ハ養親ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ離縁スルコトヲ得サラシメ以テ其地位ヲ堅確ニシ家族制度ノ主意ヲ貫徹セサルヘカラス又戸主タル養子ニ於テモ此重大ナル權利ニ伴フ責任ハ決シテ輕カラス能ク一家ヲ代表シテ家名ヲ演サス家産ヲ失ハス家族ヲ養育シ其財産ヲ管理シ相當ノ教育ヲ與ヘ婚嫁ノ監督ヲ爲ス等一ニシテ足ラス若シ相當ニシテ一旦戸主ト爲リタル後ニ於テモ自由ニ離縁シ得ヘシトセハ容易ニ此責任ヲ免レ得ルヲ以テ或ハ養家ノ資産ヲ蕩盡シ又ハ多額ノ負債ヲ爲シテ養家ニ重大ナル害ヲ貽スノ弊ナキニ非ス此ノ如キハ豈法律ノ望ム所ナラシヤ是レ本條ノ規定アル所以ナリ然レトモ一旦戸主ト爲リタル後隱居シタルニ於テハ此等ノ重大ナル

權利義務ハ戸主權ト共ニ消滅シ養子ハ復一個ノ家族ト爲ルヲ以テ協議上或ハ裁判上離縁ヲ爲シ得ルコト固ヨリ當然ナリ

**第八百七十五條 養子ハ離縁ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス**

本條ハ離縁ノ效力ヲ規定シタリ即チ第八百六十條ニ依リ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シタル養子ハ亦離縁ニ因リテ其實家ニ於テ有セシ所ノ身分ヲ回復シ管テ養子縁組ヲ爲サ、リシト同一ノ地位ニ立戻ルモノトス然レトモ此身分回復ノ爲メ第三者ガ己ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ズ例ヘハ離縁前實家ノ弟妹ガ相續編ノ規定ニ依リ家督相續又ハ遺産相續ヲ爲シタル場合ノ如キ養子が離縁シテ實家ニ復籍シタル後死者ノ直系昇屬親タル身分ヲ回復シタレハ迎己レ年長者ナルヲ理由トシテ一旦弟妹ガ相續シタル家督又ハ



遺産ヲ奪ヒ自己ニ於テ相續スルガ如キコトヲ許サスト云フニ在リ之レ素ヨリ當然ノ規定トス

第八百七十六條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス  
 本條ハ夫婦カ養子トナリ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲナシタル時妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキ場合ニ夫ハ其選擇ニ依リ離縁又ハ離婚スヘシト命シタルモノナリ夫レ夫婦ノ情好ハ縁組ノ關係トハ一種別異ノ關係ニシテ假令縁組ノ解消アルモ夫婦ノ情好ハ之ヲ絶ツニ忍ヒサルコトアリ而シテ夫婦ハ法律上ニ於テモ同居ノ義務アルコトハ第七百八十九條ノ規定スル所ナレバ婿養子ノ場合ニ於テ養子カ離縁ト爲リタルトキニ於テモ之ヲ以テ離婚請求ノ

一原因トスルニ止マリ決シテ離婚ヲ強スルモノニ非レバ妻ハ其實家ヲ去リテ養子ノ家ニ同居スルモ其自由ニ任ス況ンヤ本條ノ如キ兩養子ノ場合ニ於テ妻カ離縁ノ爲メニ養家ヲ去リタルトキハ其夫ナル養子ハ永ク婚姻ノ關係ヲ維持スル爲メ養家ヲ去ルコトヲ得ヘシ此場合ニハ其養親ト離縁セサルヘカラス然レトモ妻ナル養子カ離縁ト爲ルニハ種々ノ原因アルヘク從ツテ夫婦ノ情好ヲ維持スル能ハザルガ如キ場合モアルヘキヲ以テ其場合ニハ夫ナル養子ハ之ト離婚シテ永ク養家ニ止マリ縁組ノ關係ヲ維持セント欲スル場合アルヘキヲ以テ本條ハ其自由ナル選擇ニ任スヘキモノトセリ然レトモ本條ノ規定ハ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫タルモノ其婚姻ノ關係ト縁組ノ關係ト兩ツナガヲ維持スルコトヲ得ス何レガ其一方ヲ解消スヘシト云フニ在リ是レ此場合ニ於テ夫婦ノ



關係ト養子ノ關係トハ両立スヘカラザルヲ以テナリ

### 第五章 親 權

親權トハ子カ成年ニ達シ獨立ノ生計ヲ營ムニ至ルマテ其身及財産上ニ對シテ其家ニ在ル父又ハ母ノ有スル權利ヲ謂フ  
此定義中ニハ左ノ三個ノ事項ヲ包含ス

第一 親權ハ其家ニ在ル父又ハ母之ヲ有スルコト實ニ親權ナルモノハ其名ニ示ス如ク親ノ有スル權利ニシテ父母ヲ外ニシテ之ヲ有スルモノアルヘカラス故ニ親權ハ父又ハ母之ヲ有シ其他ノ尊屬親ハ勿論繼令戸主ト雖モ苟モ父母ヲラサルモノニ於テハ決シテ此權利ヲ有スル能ハサルモノナリ  
然レトモ苟モ親ト稱スルモノニ於テハ其父タルト母タルト又實

父母タルト養父母タルトヲ問ハス嫡母、繼父、繼母ト雖モ亦之ヲ有スルヤ論ナキナリ

第二 親權ノ範圍ハ子ノ身上及財産上ニ限り其他ニ及ハサルモノトス而シテ子ノ身上ニ對スルモノハ如何及財産上ニ對スルモノハ如何ナルモノナリヤハ爾後各條ニ就テ詳細ニ之カ説明ヲ爲スヘシ

第三 親權ハ子カ成年ニ達シ獨立ノ生計ヲ立ツルニヨリテ止息ス父母タルモノハ其子ヲ養育シ教育シ及之ヲ監督スルノ本務アリ又其子ノ利益ノ保護者ナルヲ以テ子ノ財産上ニ關スル利益ヲモ之ヲ管理扶植セサルヘカラサルモノナリ是ヲ以テ親權ナルモノヲ認メ一ハ以テ子ノ身上ニ對シ一ハ以テ子ノ財産上ニ對シテ之ヲ行ハシム然レトモ人ハ成年ニ達セバ自由ニ其享有スル所ノ權



利ヲ行使スルヲ得ヘキモノナルヲ以テ本則トス若シ夫レ子カ成年ニ達スルニ於テモ尙親權ヲ認ムルニ於テハ人ノ子タルモノハ幸ニ其ノ父母永ク存在スルトキハ遂ニ自由ヲ得ルノ機會ニ接到スル能ハサルニ終ルヘシ是レ全ク其子ノ幸福ヲ犠牲ニ供スルモノナレハ法律茲ニ見ルアリテ親權ノ終期ヲ認メタルモノトタラスソハアラサルナリ且太レ養育監督及財産ノ管理ハ子ノ心身未ダ全ク發達セス隨テ自カラ自己ノ利益得失ヲ考察スルノ能力ナキヲ以テ殊ニ之ヲ保護セシムルノ趣旨ニ出ツルモノナレハ既ニ成年ニ達シ獨立ノ生計ヲ營ムヲ得ルニ至リテハ父母ハ最早強テ之ヲ掣肘スルノ要ナカルヘシ獨リ其要ナキノミナラス時アリテカ之カ進取勇往ノ氣象ヲ阻礙スルヲ免カレス是子カ成年ニ達スルノ日ヲ以テ親權ヲ止息セシムル所以ナリ

然レトモ成年者ト雖モ獨立ノ生計ヲ營ムニアラサレハ其家ニ在ル父又ハ母ノ親權ニ服從セサルヘカラサルモノナリ故ニ子カ假令成年ニ達シタリト雖モ未ダ獨立ノ生計ヲ營ム能ハサルモノハ其能力未成年ニ於ケルト敢テ異ナルナシト認ムルヲ得ヘキノミナラス更ニ些ノ弊害之レナケレハナリ(第八百七十七條但書第八百八十二條第九百二條第一項)

舊法ハ自治産ナルモノヲ認メテ未成年者ト雖モ自治産ヲ得レハ茲ニ親權ヲ脱スルモノタルコトヲ明示セリ本法ニ於テハ自治産ヲ認メサレハ從テ未成年者ハ凡テ親權ニ服スルモノナリトス(第六條第八百七十七條)

## 第一節 總 則



第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ(舊民法人事編第一四九條第七條、第八條、第一二條、第八二五條、第八六條、第八六三條、第二五條、第八九三條)

本條ハ親權ヲ行フ人ハ何人ナリヤヲ定メタルモノナリ夫レ法律カ親權ヲ認メタル主要ナル理由ハ父又ハ母カ其子ヲ養育シ監護シ教育スヘキハ自然ニ基ク本務タリ本務ヲ盡ス方法トシテ茲ニ親權ヲ認メサル可ラス然レモ父及母カ同時ニ之ヲ行使スルニ於テハ時ニ權利ノ抵觸アルヲ免レス殊ニ教育ノ如何ハ其子終生利害ノ懸ル所然ルニ不幸ニシテ其方針ノ二途ニ出ツルカ如キアラハ爲メニ將來ヲ誤

リ其利益ヲ害スル實ニ鮮少ナラス故ニ父又ハ母其一方ヲシテ之ヲ行使セシム而シテ妻ハ夫權ニ服從スルノ義務アルモノナレハ夫即チ父ヲシテ先ツ之ヲ行使セシメ父死タルカ如キ實際之ヲ行フ能ハサル場合ニ於テノミ母ヲシテ行使セシムヘキナリ是第二項ノ規定アル所以ナリ而シテ母カ親權ヲ行フコトヲ得ルハ左ノ四個ノ場合トス

(一) 父ノ知レサルトキ  
父ノ知レサルトキトハ事實上父ノ知レサルノミニアラスシテ法律上父ノ知レサル場合ヲ云フ例ヘハ私生子ノ如キ父其家ニ同居セル場合ト雖モ未タ其子ヲ公認セサル時ニ當リテハ親權ヲ行フ能ハサルカ如シ是レ親子ノ章ヲ説クニ當テ既ニ説明シタル所ナリ

(二) 父ノ死亡シタルトキ



父死亡セハ親權ヲ行フヘカラサルヤ言テ俟タス

(三) 父カ其家ヲ去リタルトキ

父カ其家ヲ去リタルトキ即チ離縁復籍シタル後ハ全ク他家ノ人ニシテ我國ノ慣例トシテ茲ニ全ク親子ノ關係絶滅シタルモノト看做セルヨリ出ツル結果ナルノミナラス元來家族制度ト相容レサル所タレハナリ

(四) 親權ヲ行フ能ハサルトキ

父カ民事上又ハ刑事上ノ禁治産トナリ瘋癲ノ爲メ病院ニ在ルカ又ハ監置セラレタルトキ若クハ失踪シタルトキ或ハ親權行使ノ喪失ヲ宣告セラレタルトキノ如キチ云フ  
茲ニ注意スヘキハ母カ親權ヲ行フニモ亦子ト家ヲ同フスルコトヲ要ス是レ父カ其家ニ在ラサレハ親權ヲ行フ能ハサルト同一理由ナ

レハスリ

### 第八百七十八條 繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ

次章ノ規定ヲ準用ス (舊民法人事編第一五八條以下第八二七條)

繼親カ繼子ニ對シ又ハ嫡母カ庶子ニ對シテ親權ヲ行フハ後見人カ被後見人ニ對スルト殆ト似タリ故ニ新法ハ舊法ノ如ク特ニ三節ヲ設ケスシテ本條ヲ以テ後見ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタリ是立法ノ宜ヲ得タルモノタルヘシ其詳細ハ次章ニ於テ説述スヘシ

### 第二節 親權ノ効力

親權ノ主体即親權ヲ行フ人及繼親並ニ嫡母カ親權ヲ行フニ就テノ規則ハ前節ニ於テ定ムル所ナリ本節ニ於テハ親權其物ノ性質即親權ノ



客體ヲ規定セリ親權ハ如何ナル効力ヲ有スルヤハ本節ノ規定スル所  
タリ

而シテ親權ニ二種アリ身上ニ關スル權及財産上ニ關スル權是ナリ第  
八百七十九條乃至第八百八十二條ハ身上ニ對スル効力ヲ定メ第八百  
八十三條乃至第八百九十四條ハ財産上ニ生スル効力ヲ規定セリ而テ  
テ第八百九十五條ハ双方ニ共通スル効力ヲ規定セリ以下各條ニ就テ  
説明スヘシ

**第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教  
育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ**

本條ハ父又ハ母カ子ノ監護及教育ヲ爲スニ就テノ規定ニシテ其子  
ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノナリ凡ソ父母タルモノハ其子ヲ養育  
シ及薰洵誘掖スルハ當然ノ責務ニシテ又父母タルモノ、權利ナリ

然レモ父又ハ母ニ此權利ヲ與ヘタルハ畢竟父母ヲシテ未成年ノ子  
ヲ養育シ且教育スルノ義務ヲ完全ニ盡サシメシカ爲メニ外ナラサ  
レハ其子ノ成年ニ達シタルトキハ身心既ニ成熟シタルモノト爲サ  
サルヘカラス此故ニ此權利モ亦茲ニ至リテ止息セサルヘカラス然  
レモ子ノ終生父母ニ謹事シ其命令ヲ服膺スヘキハ勿論ナリト雖モ  
是レ自ラ道德上ノ事ニ屬シ又法律ノ干涉スヘキニアラサルナリ

**第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場  
所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨  
ケス** (舊民法人事編第一五〇條)

親權ハ監護ノ權ヲ包含スルモノナルコト前條ニ述フル所ノ如シ本  
條及次條ハ父母カ其子ヲ監護スル爲メ子ノ居所ヲ定ムル權アルコ  
トヲ規定セリ父母其子ヲ教育シ監護スルノ本務ヲ完フセント欲セ



ハ其適當ト信スル場所ニ居住セシメサルヘカラス故ニ一定ノ住家ヲ指定セシム若シ然ラスンハ子ハ隨意ニ其住家ヲ去ルコトヲ得テ父母ハ獨リ監護教育ヲ爲ス能ハサノミナラス子ハ隨意ニ流浪シ兜漢無類ノ徒ト交リ遂ニ一生ヲ誤ルカ如キコトナシトセス是本條ノ規定アル所以ナリ然レモ家族ト戸主トノ關係ヨリ生スル戸主ノ權利ニヨリ其家族ノ住居ヲ定ムルハ戸主タルモノ、身分ヨリ生スルモノニシテ本條ノ關スル所ニラサルナリ

**第八百八十一條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス**

父母ハ其子ヲ教育スルニハ一定ノ方針ヲ定メ以テ其子ノ將來社會ニ立ツノ日ニ當リ生計ノ途ヲ立ツルニ必要ナル學藝ヲ授ケサルヘカラス隨テ其子ノ所好ニ放任スヘカラサルヤ論ナキナリ今茲ニ未

成年ノ子兵役ヲ出願セント欲センカ必ス親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得サル可ラス抑モ兵役ノ事タル獨リ國民一般ノ義務タルノミナラス實ニ國家ノ干城忠勇愛國ノ士ノ當ニ進テ就クヘキ業タリ然レモ未成年ノ子ニ在リテハ父又ハ母ニ在リテ其子ノ將來ヲ考ヘ其所長ヲ尋子以テ豫メ既ニ教育ノ方針ヲ一定セリ然ルニ一朝世ノ刺激ニ乘シ中途就役センカ忽チ學業中途ニ挫折シ遂ニ其機ヲ失シ前途甚ダ悲ムヘキ境遇ニ接到スルノ憂アルノミナラス爲メニ一命ヲ抛チ時ニ或ハ一家廢滅ニ至ルナキヲ保セス其父又ハ母ノ意思ニ反スルヤ蓋シ少カラサルヘシ故ニ法律ハ父又ハ母ヲシテ其親權ヲ全カラシメンカ爲メ其許可ヲ受ケシムルコト、爲シタリ

**第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ル**



コトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ル、期間ハ六ヶ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所  
之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短  
縮スルコトヲ得(舊民法人事編第一五〇條第二項民法第一五一條  
及第一五二條)

夫レ教育ノ事タル最大困難事業ナレハ苟モ子ノ極メテ稟性温厚純  
良ナルニ非サレハ概テ父母ノ指導ニ背キ惡事醜行至ラサルモノハ  
鮮シ是時ニ當リ抑制控御スルノ方法ナカラシカ遂ニハ身ヲ破リ家  
ヲ亡ホスノ恐レナキ能ハス是ヲ以テ親權ヲ行フ父又ハ母ニ與フル  
ニ子ヲ懲戒スルノ權ヲ以テシ監護教育ノ任務ヲ盡サシメ延テ其子  
ノ利益ヲ保持セシメントシタルニ外ナラサルナリ懲戒權ハ親權ノ  
一部ニシテ即チ本條ノ定ムル所ナリ而テ其懲戒ノ範圍及ヒ方法ヲ

ル必要ナル程度ニ於テ自カラ懲戒スルト裁判所ノ許可ヲ得テ懲戒  
場ニ入ル、トノ二個ノ場合アリ

(甲) 父又ハ母ハ其子ヲ懲戒スルノ權ヲ有ス然レモ是レ元ト父又

ハ母カ其子ヲ教育監護スルノ必要ヨリ出テタルモノナレハ其目  
的ニ於ケル必要ナル範圍ヲ越ヘテ過度ノ懲戒ヲ爲スヘカラサ  
ルヤ明カナリ懲戒トハ恐懼改悛ノ念ヲ起サシムルニ足ルヘキ  
有形無形ノ威力ヲ云フ故ニ其過度ナルヤ將タ適度ナルヤハ事  
實問題ナリト雖モ要スルニ一時外出ヲ禁シ親族ニ預クルカ如  
キハ往々見聞スル所ノ慣例ナリ然レモ飲食ヲ減シ若クハ衣服  
ヲ屏去シ夜間戶外ニ放出スルニ至リテハ懲戒其必要ヲ超越シ  
タリト云ハサルヘカラス若シ其過度ナル懲戒ヲ加ヘタル父又  
ハ母ニ對スル處分ニ至リテハ刑法ノ處罰ヲ免レサル場合アル



ヘシト雖モ其未タ懲戒中ニ在ルキハ公力ヲ以テ之ヲ差止ムルニ過キサルヘキナリ

(乙)

父母ハ其子ニ對スル過度ナル懲戒ヲ爲ス能ハサルカ故ニ若シ其子ノ性質不良ナルニ於テハ尋常ノ懲戒ヲ以テ其不行狀ヲ改メシムルニ足ラサルコトアリ此場合ニ於テハ裁判所ニ依リテ懲戒場ニ入レ一層嚴重ナル懲戒ヲ加ヘシムルコトヲ得ルナリ而シテ父又ハ母カ其子ヲ懲戒場ニ入ル、ニハ左ノ方法ニ由ラサルヘカラス

第一 裁判所ノ許可ヲ得ルコト要ス

第二 裁判所ニ六ヶ月ノ範圍内ニ於テ入場ノ期間ヲ定ム

第三 裁判所ノ定メタル期間ハ父又ハ母ノ請求アルキハ何時ニテモ短縮スルコトヲ得

此故ニ一回ノ入場ハ六ヶ月以内タラサルヘカラス入場中其期間ヲ短縮スルヲ得ルト雖モ延長スルヲ得ス然レモ退場ノ後更ニ入場セシムルハ其ノ度数ニ於テ制限ナキナリ

第八百八十三條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ル

ニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

本條以下ハ父又ハ母ノ親權カ子ノ財産上ニ及ホス效果ヲ定メタルモノナリ

未成年者ハ概シテ思慮淺薄ナルヲ以テ其職業ヲ營ムニ當リテ深ク其利害ヲ鑑ミルニ明ナク專ラ自己ノ意向ニ任セ或ハ他人ノ欺騙ニ乘シ利益ヲキ業務ヲ營ムカ如キ殊ニ營業ニ關シテ不慮ノ奇厄ニ遭



遇スルカ如キ危険アルヲ免レス隨テ非常ノ損失ヲ招クコトアルヘク其父母ハ其子ノ性行智愚ニ應シテ適宜ノ職業ヲ撰ミ以テ其前途ノ幸福ヲ翹望スルヲ以テ子ヲ教育スルニ於テモ業ニ既ニ其方針ニ依リタルヤ必セリ然ルニ忽チ其子自ラ其欲スル所ニ從テ職業ヲ營ムハ父母ノ精神ニ反スルモノナレハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得セシメテ以テ監護ノ實効ヲ奏セシメントハシタルナリ

而シテ父又ハ母カ命シテ營マシムル職業又ハ父又ハ母カ子ノ欲スル所ノ職業ヲ以テ適當ト認ノ之ニ許可ヲ與フルニ於テハ子ハ自其職業ヲ營ムコトヲ得ヘシト雖モ未成年タル子カ未タ其營業ニ堪ヘザル事跡アルトキハ父又ハ母ハ先キニ與ヘタル許可ヲ取消シ又ハ一定ノ範圍ニ制限シ假令ハ壹万圓ノ資本ヲ五千圓ニ減シ若クハ酒及醬油造ノ職業ヲ酒造ノ一方ノミニ減殺スルヲ妨ケサルモノトス

第八百八十四條

親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス (舊民法第四一四條第二項及同人事編第一五三條)

本條ハ未成年ノ子カ有スル財産ハ父又ハ母之ヲ管理シ子ノ爲メニ財産ニ關スル法律行爲ヲ代表スルコトヲ定メタリ

未成年ノ子ハ特別ニ職業ヲ營ミ(前條)又ハ相續ニ因リ遺贈ニ依リ若クハ贈與ニヨリ特有財産ヲ有スルコトアルヘシ然ルニ未成年者ハ無能力ナルヲ以テ其私權ヲ行使スルコトヲ得サルノミナラス其財産ヲ管理スルコトヲモ爲シ得サルモノナレハ何人カ之ニ代リ其財産ヲ管理シ以テ未成年者ノ利益ヲ保存セサルヘカラス而シテ誠實ニ之カ利益ヲ希圖スルモノハ父母ヲ措テ他ニ求メ得ヘカラサルナリ



況ンヤ現ニ親權ヲ行フ父又ハ母ニ於テチヤ是ニ於テ法律ハ其父又ハ母ヲシテ未成年ノ子ノ財産ヲ管理セシムルノミナラス又其財産ニ關スル總テノ法律行爲ヲ代表セシメ而シテ其管理ノ程度タル自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テスルコトヲ命シタリ其管理トハ如何ナルコトナリヤハ第三編ニ規定スル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス」親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理スルト共ニ其財産ニ關スル法律行爲モ亦其子ヲ代表スヘキハ前既ニ說述シタル所ナリ然レモ其子ノ行爲ヲ目的トスル義務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人タル子ノ同意ヲ得ルヲ要スルナリ

例ヘハ其子ヲシテ或ル事ヲ爲サシメントスルモ其子之ヲ欲セサレハ強テ之ヲ爲サシムルモ到底満足ノ結果ヲ得ル能ハサルヤ必セリ若シ他人ヲシテ之ニ代ラシメンカ其權利者ノ意思ニ反スルヤ明カ

ナリ故ニ此場合ニ於テハ必ス其行爲ヲ爲スヘキ子ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト定メタリ而シテ法律行爲ノ何タルヤハ第一編第四章ニ就テ見ルヘシ

**第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代ハリテ其財産ヲ管理ス**

本編第三章第三節夫婦財産制ニヨリ夫ハ多クノ場合ニ於テ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキモノタリ今未成年者ニシテ婚姻ヲ爲サンカ妻ニシテ其財産ヲ有スルモ夫ハ之ヲ管理スルノ權利ヲ有ス然ルニ此場合ニ於テ自ラ其財産ヲ管理スルノ行爲ヲ爲ス能力ナキヲ以テ親權ヲ行フ父又ハ母當然之ニ代テ管理スルコト、定メタリ

**第八百八十六條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會**



ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

- 一 營業ヲ爲スコト
- 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
- 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
- 四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

五 相續ヲ拋棄スルコト

六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト

女子ハ男子ニ比スレハ心身共ニ軟弱ニシテ事物ニ當テ果斷決行スルノ勇ナク且常時内ニ在テ家務ニ從事スルモノナレハ世ニ處スル經驗ニ乏シク外部ニ向テ折衝スルノ能力ナキモノト云ハサルヘカ

ラス是ヲ以テ親權ヲ行フニ際シ其子ニ代リテ行爲ヲ爲シ又ハ子ノ行爲ニ同意ヲ與フルカ如キ場合ニ於ケル到底親權ヲ行フ父ノ老練熟達機ニ臨ミ變ニ應スルノ活智ニ比フヘキニアラサルヘシ隨テ不測ノ損害ヲ醸シ後禍ヲ殘スコアルヤ知ルヘカラス此故ニ法律ハ其行爲ノ著シキモノヲ掲ケ以テ其行爲ヲ爲シ又ハ同意ヲ與フルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ強要シタリ乃チ左ニ記スル行爲ハ凡テ母ハ獨立ノ意見ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ同意ヲ與フルコトヲ得サルモノナリ

(一) 營業ヲ爲スコト

營業ハ利益ノ競争ナリ業ヲ撰ヒ時ヲ考ヘ以テ之ニ從ハサルヘカラス殊ニ營業タル利害相伴フモノナレハ時ニ或ハ莫大ノ利益ヲ占ムルアリト雖モ亦巨額ノ損失ヲ招クコトナシトセス一貴一賤商機止



ムナク堂々タル男子尙且ツ踉蹌顛沛ヲ免レヌ況ンヤ女子ニ於テナ  
ヤ其獨斷ニ一任セサル蓋シ其理由ナキニアラサルナリ

(二) 借財又ハ保証ヲ爲スコト

入ルニ難ク出ルニ易スキモノ金錢ヨリ甚ダシキハナシ一度借財ヲ  
爲サンカ啻ニ元本返却ノ困難ナルノミナラス不知ノ内ニ利息ニ利  
息ヲ重子遂ニハ一家ノ破滅ヲ來スノ恐レアリ保証ト雖モ亦然リ凡  
ソ債務ヲ負フモノ既ニ其資力ノ薄弱ヲ表白スルモノタリ隨テ其資  
産ノ或ハ耗盡ニ至ルヲ豫期セサルヘカサラス然ルニ保証人ハ第二  
ノ債務者タルヲ以テ之カ代辨ノ責ニ服セサルヘカラサルカ故ナリ

(三) 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル  
行爲ヲ爲スコト

不動産ハ資産ヲ組成セル重要ノ部分ニ屬スルヲ常トス且ツ動産ノ

如ク價格ノ昇降急ナラス從テ動産ニ比スレハ古來一般貴重セラル  
、所ノモノタリ然レトモ近來ニ在リテハ動産ト雖モ其重要ナルモ  
ノニ至リテハ或ハ不動産ノ上ニ位スルモノアルヲ以テ法律ハ之ヲ  
不動産ト同視シ容易ニ其權利ヲ喪失セシメサランカ爲メ茲ニ列記  
シタル所以ナリ

(四) 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲ス  
コト

和解トハ双方讓歩ヲ爲シテ權利上ノ爭ヲ防止スルモノナレハ多少  
ノ損失ヲ免レヌ其仲裁契約ノ如キモ亦双方ノ間ニ起ラントスル爭  
ヲ他人ノ意思ヲ容レ以テ其局ヲ結フモノナレハ其利害ハ容易ニ識  
別スルコトヲ得サルカ故ナリ

(五) 相續ヲ拋棄スルコト



是又自ラ得ヘキ權利ト負擔ニ婦スヘキ義務ヲ合セテ拋棄スルモノ  
ナレハ其利害ヲ賭ルコト甚タ容易ナラサレハナリ

(六) 贈與又ハ遺贈ヲ拋棄スルコト

是又前述同一ノ理由ニ依ルモノトス

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ  
同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消コ  
トヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

親權ヲ行フ父又ハ母カ管理行爲ノ範圍ヲ超ヘテ其子ノ財産ヲ處分  
シ又ハ財産ニ關セサル行爲ヲ其子ニ代テ爲シ或ハ其子ノ行爲ヲ目  
的トスル義務ヲ生スル法律行爲ヲ本人ノ同意ヲ得スシテ爲シ又ハ  
母カ前條ニ定メタル行爲ニ就キ親族會ノ同意ヲ得スシテ自カラ爲

シ若クハ其子ニ同意ヲ與ヘタルトキハ其行爲ハ之ヲ取消シ得ヘキ  
行爲トス(取消シ得ヘキ行爲ノ何タルコトハ第一編ニ就テ知ルヘシ)而  
シテ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ子之ヲ取消スコトヲ得ルナリ然レ  
トモ未成年ノ子カ成年ニ達シタルトキハ其子カ之ヲ追認(第十九條  
スルニ於テハ其行爲ハ最早取消シ得ヘカラサルニ至ル若シ子カ未  
タ成年ニ達セサルトキハ行爲ヲ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル父若クハ  
母カ追認シタルカ又ハ前條ノ場合ニ於テハ親族會カ同意ヲ與フル  
コトヲ追認シタルトキハ取消シ得ヘカラサルモノトナリ其行爲ハ  
有効タルヘキナリ(追認ノ何タルヤ及其方式ニ付テハ第二百二十條以  
下ヲ見ルヘシ)而シテ追認ハ子カ成年ニ達シタルトキハ其子カ明カ  
ニ追認ノ意思ヲ表示スルカ又ハ相手方ヨリ一ヶ月以上ノ期間内ニ  
追認スルヤ否ヤヲ催告シ其期間經過後ニ返答ヲ成サ、ルトキハ追



認ト見做サル又其子カ未成年ナルトキハ父又ハ母カ明カニ追認スルカ又ハ一ヶ月以上ニ定メラレタル期間内ニ返答ヲ爲サ、ルトキ及前條ノ場合ニ於テ親族會ヨリ追認スルカ又ハ同一期間ヲ默過スルトキハ亦再ヒ取消スコトヲ得サルモノトナルヘキナリ

以上ノ取消シ及追認ニ關スル規定ハ親權ノ結果ヨリ生スル特別ノ効果ニシテ一般ノ取消原因タル第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ規定ハ之カ爲メニ之カ適用ヲ妨ケラル、モノニアラスシテ兩々並ヒ行ハル、モノタリ是本條第二項ノ規定スル所ナリ

**第八百八十八條** 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ其一人ト

他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス (第百〇八條)

親權ヲ行フ父又ハ母ト未成年ナル其子トノ關係ニシテ利益相反スル行爲ニ就テハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルモノトス例ハ父又ハ母カ其子ト有償契約ヲ爲ス場合假リニ賣買ヲ以テ例セハ一方買主タルモノハ可成的安價ナルヲ利益トシ賣主ニ在リテハ可成的高價ニ賣却セント欲スルハ人ノ常情ナルヘシ斯ル双方利益相反スル場合ニ於テハ其父又ハ母ハ親族會ニ請求シテ子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任セシメ以テ其代理人ト行爲ヲ爲スヘキモノトス

又父又ハ母ノ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テモ亦然リ然レモ既ニ自ラ双方ヲ代表スルカ故ニ何レカ其一方ノ代理人ヲ選任スレハ足レリトス例ヘハ父カ兄弟二人ノ未成年タル子ニ對シ親權



ヲ行フトキ弟ノ爲メニ特別代理人ヲ選任シ自ラ兄ヲ代表シテ双方ノ間ニ行爲ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ是ナリトス  
 特別代理人ハ親族會ニ請求シテ選任シムルモノトス若シ特別代理人ナクシテ行爲ヲ爲シタルトキハ親權ノ行使ヲ停止セラレ而シテ其行爲ハ無効タルヘキナリ

第八百八十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一

ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス  
 母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其責ヲ免ルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラス (第四〇〇條)

親權ヲ行フ父又ハ母ハ其子ノ財産ヲ如何ニ管理スヘキヤ是本條ノ定ムル所ナリ凡ソ物ノ管理ヲ爲スニハ善良ナル管理人ノ注意ヲ要スル場合アリ善良ナル管理人ハ他人ノ物ヲ管理スルニハ自己ノ物ヲ管理スルヨリモ最モ鄭重ヲ旨トシ決シテ喪失毀損スルコトナカルヘシ故ニ法律ニ於テ善良ナル管理人ノ注意ト云ヘルハ最重大ノ注意トス而シテ又自己ノ物ヲ管理スルト同一ノ管理ナルモノアリテ前者ニ比シ稍寛容ナルモノニシテ管理人カ自己ノ物ヲ管理スルト同一ノ注意ヲ以テ管理スルニ由リテ其責務ヲ免カル、モノナリ故ニ前者ハ客觀的注意ニシテ後者ハ主觀的注意ナリ本條ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要スト規定セリ從テ父又ハ母カ其性質トシテ自己ノ物ヲ極メテ丁寧ニ取扱フ習慣アリトセハ其管理スル所ノ子ノ財産ヲ扱フニ於テモ亦極メテ慎重ナラサルヘカラス反之性質疎暴ニシテ自己ノ財産管理ニ於テ屢々物ヲ毀損喪失セシムルコトアルカ如キ者ナルトキハ其子ノ



財産ヲ管理スル上ニ於テ多少ノ過失等アルモ其責任ニ歸セサルモ  
 ノト爲シ以テ一家ノ和睦親愛ヲ傷ケサランコトヲ欲シタルナリ  
 父カ親權ヲ行フ場合ハ獨立ノ意見ヲ以テ其管理ヲ爲スコトヲ得ル  
 モノナレトモ母カ第八百八十六條ノ行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意  
 ナ要ス而シテ其同意ノ効力ハ母ヲシテ其責任ヲ免レシムルニ足ラ  
 サルナリ何トナレハ若シ其責任ヲ免レシムルニ於テハ母カ管理權  
 ナ有スルニアラスシテ親族會カ管理ヲ爲スノ奇態ヲ生スルニ至ル  
 ヘケレハナリ然レトモ凡テノ責任ヲ母ニ歸セシムルニ於テハ親族  
 會ノ同意ヲ與ヘタル効果ハ遂ニ全ク之レ無キニ至ラン是ヲ以テ母  
 ニ過失ナカリシモノハ其責ニ任セスト爲シタル所以ナリ

第八百九十條

子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒクル父又ハ

母ハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及

ヒ財産ノ管理ノ費用ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタルモ  
 ノト看做ス（舊民法人事編第一五六條）

親權ハ子カ未成年中ニ存スルモノナリ從テ其子カ成年ニ達シタル  
 トキハ親權モ亦之ト共ニ消滅スルモノナレハ親權行使中ニ子ノ財  
 産ヲ管理シテ得タル收益ハ遲滯ナク計算セサルヘカラサルヤ當然  
 ナリ然レトモ其子ヲ養育スルニ就テノ費用例ヘハ生活費用修學費  
 用及財産管理ニ係ル費用例ヘハ地租其他ノ諸稅及家屋修繕費用ノ  
 如キ支途夥多ナルヘキカ故ニ其子ノ財産ヨリ得タル收益ハ全ク之  
 ト相殺シタルモノト見做シ獨リ元本即チ未成年中ニ所有セル動産  
 不動産ノ全部ヲ引渡セハ足レリトス

第八百九十一條

前條但書ノ規定ハ無債ニテ子ニ財産ヲ與フル第

三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財産ニ付テハ之ヲ適



用セス

前條ニ依レハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ其子ノ成年ニ達シタルトキ其管理中ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テ其子ノ養育及財産管理費用ハ其子ノ財産ノ収益ト之ヲ相殺シタルモノト看做スト規定シタルモ財産ヲ有スル原因ニヨリ此規定ヲ適用セサルコトアリ即第三者ヨリ無償ニテ財産ヲ子ニ與フルニ當リ其第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキ是ナリ凡ソ無償ニテ財産ヲ與フルモノハ概子之ヲ受クル者ノ身上ニ特別ナル關係ヲ有スル者ナルヘシ故ニ第三者カ受贈者タル子ノ利益ノ爲メニ與ヘタル財産ニシテ其財産ヨリ生スル収益ハ親權ヲ行フ父又ハ母ニ於テ其子ノ養育及財産ノ管理費ニ支消スルヲ得セシメサルノ意思ヲ表示シタルトキハ前條但書ハ適用セラレサルモノトス例ヘハ未成年ノ子カ繼父母ノ親權ニ服従スル場合

合ニ於テ實父母ノ伯叔父母ヨリ其子ニ對シ贈與シタル財産ハ繼父母之ヲ管理スルモ其収益ハ管理及教育費用等ト相殺セシメサル意思ヲ表示シタル場合ノ如キ是ナリ

第八百九十二條 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セサリシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス  
 第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セサルトキ亦同シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用



ス  
無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ其  
財産ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母  
ノ管理ニ屬セス其第三者ノ指定シタル者ヲシテ之カ管理ヲ爲サシ  
ムルモノトス然レトモ若シ第三者カ其管理者ヲ指定セサル場合ニ  
於テモ子ハ未成年ナルカ故ニ自テ其財産ヲ管理スヘカラサルカ故  
ニ子自ラ又ハ其親族若クハ檢事ヨリ裁判所ニ其管理者ノ選任アラ  
ンコトヲ請求スヘシ而シテ裁判所ハ其適當ト認ムル者ヲシテ管理  
者ニ選任スヘキモノトス是レ第二項ノ定ムル所ナリ  
第三者カ管理者ヲ指定シタルトキト雖モ管理者ノ權限カ消滅シ又  
ハ管理者ニ故障又ハ越權等ノ所爲アリテ改任ノ必要ヲ生シタルト  
キニ當リ第三者カ更ニ管理人ヲ指定セサル場合ニ於テモ亦前條ト

同一手續ニヨリ其管理人ヲ選任セシム  
前述裁判所カ選任シタル管理人ハ不在者ノ財産ヲ管理スル管理人  
ト其性質酷似タルヲ以テ其權利義務ハ第二十七條乃至第二十九條  
ノ規定ヲ準用スルコト、定メタリ

第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父  
又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス  
(舊民法人事編第一五七條)

本條ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合及前條ノ管理人カ子ノ  
財産ヲ管理スル場合ニ於テハ委任ニ關スル第六百五十四條及第六  
百五十五條ノ規定ヲ準用スルコトヲ定メタルモノナリ其委任ノ何  
タルハ其個條ニ就キ研究スヘシ

第八百九十四條 親權ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會員ト其子



ト入間ニ財産ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス  
子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

本條ハ親權ヲ行ヒタル者ト其子トノ間ニ財産管理ヨリ生シタル債權ニ付テノ特別時効ヲ規定シタリ凡ソ債權ハ十ケ年間之ヲ行ハサルニ由リ消滅スルモノナルモ此場合ハ五ケ年ヲ以テ時効ニ罹ルモノトセリ蓋シ親子ノ間又ハ親族ノ間殊ニ親權ノ關係ヨリ生シタル債權ヲ永ク存続スルハ當事者ノ本意ニアラス却ツテ將來ノ不和ヲ醸ス媒介タラシムルニ至ルコトアルヲ恐レタルニ基クモノナラン然レモ子カ未成年中ニ管理權カ消滅シタルトキハ子ハ自ラ權利行

使ヲ爲スコトヲ得サルハ前既ニ説述シタルカ如シ故ニ例ヘハ管理權消滅ノ當時ヨリ子ノ成年ニ達スル期間ハ尙五ケ年ヲ要ストセシカ債權ハ茲ニ時効ニ罹リ未成年者ハ遂ニ其債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得スシテ止マランノミ故ニ前述ノ期間ハ一時其進行ヲ停止シ子カ成年ニ達シタルトキ又ハ後任ノ法定代理人カ就任シタル時ヨリ更ニ起算スルモノトセリ是レ第二項ノ定ムル所ナリ

### 第八百九十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ

#### 戸主權及ヒ親權ヲ行フ

本條ハ父又ハ母カ未成年者タル子カ有スル戸主權及其子ノ身分上及財産上ニ有スル親權モ自己未成年ナル故ヲ以テ自カラ行使スルヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リテ行フヘキコトヲ規定シタルモノナリ



### 第三節 親權ノ喪失

本節ハ父又ハ母カ親權ノ全部又ハ一部ヲ失フ場合ヲ規定シタルモノニシテ其原因ニアリ一ハ親權ヲ濫用シ又ハ著シキ不行跡アルトキ一ハ管理ノ失當ニヨリ子ノ財産ヲ危クスルトキ是ナリ以下各條ニ就キ説明スヘシ

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナル

トキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得(舊民法人事編第一六〇條)

本條ハ親權喪失ニ係ル第一ノ原因ニ就キ規定シタルモノニシテ父又ハ母カ親權ヲ有スルノ故ヲ以テ擅ニ其權利ヲ濫用シ過度ノ懲戒ヲ爲シ若クハ過酷ナル使役ヲ爲シ其子ノ發育ヲ阻害シ先天的有爲

健全ノ心身ヲ具備セルモ遂ニハ卑屈脆弱ニ陥ラシメ以テ人世ノ快樂ヲ享クルヲ得サラシムルノミナラス徒ラニ無用ノ長物ヲヲムルカ如キ世其例ニ乏シカラサルヲ以テ一面親權ヲ與ヘタルモ一面其行使ニ就キテ制限ヲ加ヘタルナリ而シテ尙又著シキ不行跡ナルトキ即チ父又ハ母其子ノ爲メニ親權ヲ行ヒ將來有用ノ材ヲラシムヘキ重責アルニモ拘ラス身親ヲ放蕩無賴獨リ他人ノ指斥ヲ受クルノミナラス或ハ其家産ヲ消盡シ延テ其子ノ財産オモ併セテ喪失シ其子ヲシテ遂ニ頼ルナキノ悲境ニ沈淪セシムルナキヲ保セス苟モ斯クノ如クシハ父又ハ母ヲシテ其親權ヲ行ハシムルノ趣旨ニ反スルノミナラス公安ヲ害スル少カラサルヲ以テ裁判所ヲシテ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニヨリ其親權ノ喪失ヲ宣告セシムルコトヲ得ルモノト定メタリ



而シテ第八百九十二條ノ場合ハ子自身ニ於テモ裁判所ニ請求スルノ權利ヲ與ヘタリ然ルニ本條及次條ニハ子自ラ之ヲ請求スルノ權利ヲ與ヘサルハ何ソヤ蓋シ子トシテ親權ニ服従スルハ素ヨリ當然ノ正理タリ且夫レ第八百九十二條ニ在リテハ第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシムルヲ欲セサル場合ナレハ父又ハ母ニ在リテハ聊カ心ニ慊シトセサル所アルヘシ隨テ子ノ利益ノ爲メニ自ラ進テ管理人ノ指定ヲ請フヲ欲セサルモ亦知ルヘカラス況ンヤ既ニ親權ヲ行フ父又ハ母ノ管理ニ屬セサル財産ニ對スル管理人ノ指定ノ請求權ナルヲ以テ之ヲ子ニ與フルモ敢テ親權ヲ傷クル所ナクシテ子ノ利益タル鮮少ナラサルニ於テヤ然ルニ本條及次條ニ於テハ親權又ハ管理權ノ視奪ニ關係スルモノナルカ故ニ其絶對服従義務アル未成年者ヲシテ自カラ之カ局ニ當ラシムルカ如キハ

既ニ條理ニ背戾スルハ勿論其思慮淺薄ナルヲ以テ將來ノ利害ヲ察セズ妄リニ自ラ其受クル所ノ教育ヲ忌避シ若クハ督勵ノ嚴格ナルヲ厭ヒ或ハ過酷ナリ又ハ非道ナリト稱シテ自ラ其羈絆ヲ脱却セシコトヲ希圖シ事ニ託シテ屢裁判所ヲ煩ハスコトナシトセズ是ヲ以テ寧ロ獨リ其親族及公明ナル檢事ニ之カ請求權ヲ與ヘ以テ子ヲ除斥シタル所以ナル歟

第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

前條ハ不當ナル親權ヲ行ヒタル場合ニシテ本條ハ財産上ニ失當ナ



ル管理權ヲ行ヒタル場合ヲ規定ス

父又ハ母ハ親權ヲ行フ結果トシテ子ノ財産ヲ管理スルモノタリ然ルニ其管理宜キヲ得ス爲メニ其財産ヲ危殆ニ傾カシムル場合ニ在リテハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニヨリ財産管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得セシメタリ蓋シ親權ヲ行フ父又ハ母ハ其子ノ財産ヲ管理スルニ當テハ自己ノ物ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テスレハ足ルモノタリ然ルニ此注意ヲ以テ管理スルニ拘ハラズ其性質孱弱廢放若クハ極メテ不規律ノ行爲アリテ爲メニ其財産ニ危害ヲ生シタルトキ又ハ自己ノ物ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ管理スルニ至ラズ間々疎虞懈怠ニ基キ其財産ヲ危クシタルトキハ共ニ本條ノ範圍ニ屬スルモノト知ルヘシ

父カ前項ニヨリ管理權ヲ失ヒタルトキト雖モ親權ハ猶ホ依然之ヲ

帶有スルカ故ニ子ノ財産管理以外ノ權ハ總テ之ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス然レトモ其管理權ニ限リ全ク其家ニ在ル母ノ手ニ歸シ母當然之ヲ管理スヘキモノタリ是第二項ノ定ムル所ナリ

第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所

ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得ル親權ヲ濫用シタルカ故ニ又ハ著シキ不行跡アリタルカ故ニ其親權ヲ失ヒ子ノ財産ヲ危クシタルカ故ニ其管理權ヲ失ヒタルトキノ如キ何レモ元ト其原因ノ現存スルカ故ニ子ノ利益ノ爲メニ之ヲ宣告スルニ過キス故ニ若シ夫レ苟モ翻心改悛シテ最早斯ル事蹟全ク止息シタラシカ本來親子ノ關係他人ノ得テ離間スヘカラサル眞情ノ纏綿セルモノナレハ徒ラニ久シク其權ヲ奪ヒ之ヲ阻隔スルノ益ナキヲ以テ本條ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消ス



コトヲ得ルト定メタリ

本條ニ本人又ハ其親族トアルモ子ノ親族モ亦之ヲ請求スルヲ得ヘシト信ス法文ニ之ヲ掲クル所以ノモノハ子ノ親族ヨリ此請求ヲ爲シ得ルハ當然ナリトノ趣旨ナラン

### 第八百九十九條 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

(舊民法人事編第八九六條第二項)

親權ハ主トシテ子ノ身上ニ關スルモノナリ此權利ハ子ノ養教育ヲ全カラシムルノ一方法トシテ與ヘタルモノナレハ一方ヨリ見レハ義務ト云フヲ得ヘク殊ニ公益ニ關スルモノナレハ父母タルモノ如何ナル事情アルモ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス然レトモ親權ニ伴隨スル財産上ニ關スルモノハ主トシテ子ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノナリ而シテ女子ナルモノハ元來柔弱ニシテ克ク困難ナル事業ニ堪

ニル能ハサル所ノモノタリ殊ニ財産管理ノ事タル頗ル世故ニ通スト雖モ往々ニシテ失敗ヲ免カレサルモノアリ且夫レ母カ財産管理ヲ爲ス場合ハ多クハ子既ニ父ノ相續ヲ爲シタル後ナルヘクシテ其財産多キヲ加ヘ隨テ管理一層困難ナルヘキカ故ニ母ノ自カラ之ヲ管理スルヲ強ヒス適當ノ人ヲ選定シ之カ管理ヲ托スルヲ得セシメタルハ子ノ爲メ却テ利益ヲ保護スルノ道タルヘケレハナリ

### 第六章 後見

後見トハ自然又ハ偶發ノ原因ニヨリ又ハ刑法ノ制裁ニヨリテ無能力ノ状態ニ在ル者ノ利益ヲ保護スル爲メ法律ノ設定シタル方法ニシテ即チ未タ心身發達セス且ツ親權ヲ行フ父母ナキ未成年者又ハ父母カ親權ヲ行フモ財産ノ管理者ナキトキ若クハ疾病其他ノ原因ニ由リ心



神喪失ノ常況ニ在ルカ爲メ民事上禁治産ノ處分ヲ受ケタル者又ハ重罪ヲ犯シタルカ爲メ刑事上治産ヲ禁セラル者ノ一身上及財産上ニ關スル利益ヲ保護スルノ目的ニ出テタル法定ノ方法ナリ而シテ此方法ニヨリ無能力者ヲ代表シテ之カ利益ヲ保護スルモノヲ後見人ト云ヒ之ヲ受クルモノヲ被後見人ト云フ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ後見ニハ三種アリ(一)未成年者ノ後見(二)民事上禁治産者ノ後見(三)刑事上禁治産者ノ後見是ナリ

第一節 後見ノ開始

本節ハ後見ハ何ニ因テ生スルヤヲ規定ス

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

- 一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ

者カ管理權ヲ有セサルトキ

二 禁治産ノ宣告アリタルトキ (舊民法第八條同人事編第一六一

條第二二四條第二項)

後見ハ左ノ場合ニ開始スルモノトス

- (一) 父母共ニ死亡シタルトキ  
父母共ニ死亡シテ子未ダ成年ニ達セサレバ後見ノ開始スヘキヤ當然ナリ
- (二) 父母共ニ生存シ又ハ其一方生存スルモ親權ヲ行フ能ハサル

トキ

此場合ハイ)父母共ニ生存スルモ病氣失踪又ハ離縁等ニヨリテ同時ニ又ハ相前後シテ親權ヲ行フ能ハサルニ至リタルトキロ)父死亡後母親權ヲ行フ能ハサルニ至リタルトキハ)母カ死亡後父親權ヲ行フ



能ハサルニ至リタルトキ(ニ)父カ親權ヲ行フ能ハサルニ至リタル後母死亡シタルトキ(ホ)母カ親權ヲ行フ能ハサルニ至リタル後父死亡シタルトキ是ナリ

而シテ父母カ親權ヲ行フ能ハサルニ至ルハ事實上ノ不能ヨリ出ツルコトアリ法律上ノ不能ナルコトアリ共ニ不能ナルニ於テハ後見開始ノ原因トナルナリ

- (三) 親權ヲ行フ父又ハ母カ財産管理權ヲ有セサルトキ (イ) 親權ヲ行フ父又ハ母カ第八百九十七條ニ依リ管理權ヲ喪失シタルトキ (ロ) 親權ヲ行フ母カ第八百九十九條ニヨリ財産ノ管理ヲ辭シタルトキ是ナリ

(四) 成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ(第七條第八條)

## 第二節 後見ノ機關

何人カ後見ヲ爲スヤ是本節ノ規定スル所ニシテ法律ノ示セル後見ノ機關ハ二トス曰ク後見人曰ク後見監督人はナリ第一款ハ後見人ノ事ヲ規定シ第二款ハ後見監督人ノ事ヲ規定ス

### 第一款 後見人

本節第九百一條乃至第九百六條ハ後見人ノ選任ノコトヲ規定シ第九百七條ハ辭任ノ事ヲ定メ第九百八條ハ後見人トナル能ハサル者ヲ規定シ第九百九條ハ保佐人ニ關スル特別ノ規定ナリ  
後見人ニ三種アリ曰ク指定後見人曰ク法定後見人曰ク選定後見人はナリ以下各條ニ就キ此三種ノ後見人ヲ説明セントス



第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得（舊民法人事編第一六四條第六五條）

本條ハ指定後見人ノ事ヲ規定セリ未成年者ニ對シ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ニヨリ後見人ヲ指定スルコトヲ得是ニヨリテ指定セラレタル後見人ヲ指定後見人ト稱ス抑モ後見人其人ヲ得ルト否トニ因リ最モ直接ニ利害ノ影響ヲ受クヘキモノハ未成年者ナリ而シテ其未成年者ノ利益ヲ保護スルニ最モ適當ノ地位ニ在ルモノハ則チ親權ヲ行フ父又ハ母ナレハ未成年者ノ利害ヲ考量シ後見人ヲ選定

スルノ衝ニ當ルヘキモノ亦親權ヲ行フ父又ハ母タラサルヘカラス故ニ法律ハ父又ハ母ヲシテ生前豫メ後見人ヲ指定スルコトヲ得セシメタリ

然レトモ親權ヲ行フ父又ハ母ノ一方カ親權ヲ行ヒタル後新ニ他ノ一方父又ハ母カ之ニ代リテ親權ヲ行フトキハ前ニ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ後見人ヲ指定スルコトヲ得サルナリ是レ後見ハ親權ノ延長ナレハ現ニ親權ヲ行フモノガ指定スルニアラサレハ効力ヲ生スルモノニアラサルナリ是法文ニ「最後ニ親權ヲ行フ者ハ云々」ト云ヘル所以ナリ然レトモ親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ後日母ノ親權ヲ行フ場合到來スヘキニモ拘ハラス父ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ヘシ是第八百九十九條ヨリ生スル當然ノ結果ナリ



母カ管理ヲ辭シタルトキ又ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ管理權ヲ喪失シタルトキハ後見人ヲ指定スルコトヲ得ス是財産管理ハ後見ノ重要ナル事務ナレハ充分ニ後見人ノ適否ヲ鑑別セサルヘカラス然ルニ自ラ管理ヲ爲スコトヲ得サル者カ其管理ヲ委スヘキ後見人ヲ選定スルカ如キニ至テハ往々甄別ヲ誤マルノミナラス實ニ事理ノ許サ、ル所タレハナリ

第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人ト爲ル

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規定ニ依ル

夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル（舊民法人事編第二二四條第二項第三項）

本條ハ法定後見ノ一種ナル禁治産ノ後見人ヲ定メタリ而シテ配偶者アルトキト然ラサル場合トニヨリテ一樣ナラス

第一 配偶者ナキトキ

此場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ當然後見人タルヘキナリ而シテ其父又ハ母ハ前條ニヨリ禁治産者ノ後見人ヲ指定スルコトヲ得ヘシ然レトモ左ノ條件ヲ要スルモノナルコトハ法文ノ上ヨリ自然ニ生スル論理ナリ

甲、父又ハ母自カラ後見人タルノ權利ヲ有スルトキ

乙、親權ヲ行フ父又ハ母カ遺言ヲ以テスルコト

自己生前ニ後見ヲ免レントスルカ如キハ許サル、ナリ

丙、父又ハ母ノ死後當然後見人トナル可キ母又ハ父ナキコト是亦未成年者ノ後見ニ於ケルト同一理ナリ



第二 配偶者アルトキ

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻當然後見人トナルモノトス然レトモ妻未成年又ハ管理權喪失若クハ之ヲ辭シタルトキ及ヒ夫カ未成年ナル場合ニ於テハ共ニ第一ニ於テ逃ヘタル所ニ從ヒ親權ヲ行フ父又ハ母カ後見人トナルヘキモノトス

第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサル

トキハ戸主其後見人ト爲ル (舊民法人事編第一六六條)

本條モ又法定後見人ノ一種ナル戸主カ後見ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ未成年者ノ家族又ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルモノ、家族ニシテ其後見人タルヘキモノナキトキハ成年ノ戸主之カ後見人タルヘキモノトス實ニ家族ハ戸主ノ權下ニ服シ戸主ハ一家ヲ整

理シ家族ヲ養育教育スルノ任務アルモノナリ故ニ戸主ヲシテ後見人タラシムルハ獨リ家族制ニ適合スルノミナラス之カ後見ヲ受クル者ノ爲メニモ大ニ利益ナルヘケレハナリ

第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ

後見人ハ親族會之ヲ選任ス (舊民法人事編第一六七條第二二四條

第四項)

本條ハ選定後見人ヲ定メタリ以上指定後見人法定後見人共ニ在ラサルトキハ親族會ニ於テ之ヲ選任スルモノトス親族會ニ關スル事ニ付テハ後ニ述フル所アルヘシ

第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、

親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父、母



又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ又ハ其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス（舊民法人事編第一六八條第二二四條第四項）

親權ヲ行フ母カ財産管理ヲ辭シ又ハ後見人カ管理ノ職務ヲ辭シ若クハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母カ家ヲ去リタルトキ又ハ戶主カ隱居ヲ爲シタルトキ此等ノ事由アルトキハ後見ハ終了スルカ故ニ之ニ代テ後見ヲ爲スヘキ者又ハ新ニ後見人タルヘキ者ヲ選任スルノ必要ヲ生スヘシ此場合ニ於テハ其自ラ後見ヲ退キタル者ヨリ裁判所ニ向テ親族會ヲ招集センコトヲ請求セサルヘカラス茲ニ隱居ヲ爲シタル戶主ヨリ請求スルノ文字ヲ缺キタルモ其後ヲ承ケテ戶主ト爲ルモノ成年者ナルトキハ素ヨリ自カラ後見人タラサルヘカラスト雖モ若シ未成年者ナルトキハ前戶主ヨリモ亦裁判所ニ請求セサル

ヘカラサルハ勿論タルヘシ

第九百六條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス（舊民法人事編第一六二

條第二二六條）

後見人ハ一人ニ限ルヘキモノタリ是レ恰モ親權ヲ行フモノ、一人ニ限ルト同一理由ニ基クモノトス

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

- 一 軍人トシテ現役ニ服スルコト
- 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルコト
- 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト



四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戸主ハ此限ニ在ラス

五 此他正當ノ事由(舊民法人事編第一六三條第一七八條第一七九條第二二五條第二二六條)

本條ハ後見免除ニ關スル規定ナリ抑モ後見ノ職務タル獨リ彼後見人ノ私益ノ爲メノミナラス實ニ公益上ノ必要ヨリ生シタルモノナレハ親族ト他人トヲ問ハス苟クモ後見人ニ指定セラレタルトキハ縱令本人ノ意思ニ反スルモ辭任スヘカラサルモノトス然レモ絕對ニ之ヲ強行スルモ却テ實効ヲ奏セサルヲ恐レ或場合ニ限り之カ責任ヲ解除スルノ方法ヲ設ケタリ即チ本條揚クル事由ノ一ニ當ルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ルモノトス尤モ本條ハ男子ニノミ適用セ

ラル、モノニシテ婦女ハ如何ナル場合ニ於テモ自ラ後見ヲ辭スルヲ得ルモノトス何トナレハ親權ヲ行フ母ニ在リテモ尙財産管理ヲ辭スルヲ得ヘケレハナリ

第一 現役ニ服スル軍人

軍人ノ何タルコトハ陸軍刑法第三條第四條海軍刑法第五十條第五十一條ニ就テ看ルヘシ思フニ現役ニ在ル軍人ノ如キハ國家公務ノ爲メ全ク身命ヲ犠牲ニ供シ復タ家事ヲ顧ミルノ暇アルヘキモノニアラス況ンヤ他人ノ後見ヲ爲スノ餘地アランヤ若シ夫レ苟モ家事ニ心ヲ傾ケンカ勢ヒ公務ニ欠クル所ナキ能ハス故ニ專ラ公務ニ盡瘁セント欲セハ遂ニ私事ヲ慮ルノ餘裕ナキナリ凡ソ公事私事ト相牴觸スル場合ニ於テハ私事ヲ捨テ、公事ニ就カサルヘカラサルハ古今不易ノ通理タリ其軍人ニ於ケル素ヨリ多辯ヲ竣タサル所タリ



殊ニ國家一朝事變アルニ當テハ直ニ其難ニ赴クカ如キ一定ノ地ニ永住ノ見込ナキモノナレハ事實上ニ於テモ亦事ニ茲ニ從フコト能ハサルヘケレハナリ

第二 彼後見人住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從事スルトキ此場合ハ前項ト同シカラス軍人以外ノ官公吏ニ就テ規定シタルモノニシテ被後見人ト同郡又ハ同市ニ在リテ公務ニ從事スルモノハ公務鞅掌ノ餘暇尙克ク後見ノ責務ヲ完フスルコトヲ得ヘキモノナリ是レ一般官公吏ニ在リテハ其性質トシテ一定ノ地ニ永住シ同一市郡中ニ在リテハ其距離甚ダ遠カラサルヘケレハナリ然レモ其市郡以外ニ於テ公務ニ從フモノ、如キハ其距離概テ離隔セルノミナラス時ニ滞在セサルヘカラサルカ如キコトアリテ双方ノ不便アルヘケレハ是レ亦免除ノ一原因ニ加タルナルヘシ

第三 自己ヨリ先キニ後見人タルヘキ者カ正當ノ事由ニ因リ辭任シタルモ其事由既ニ消滅シタルトキ

自己ヨリモ先キニ後見人トナルヘキモノアルトキハ自己ハ先ツ其者ニ讓リ自ラ之ヲ辭スルコトヲ得ヘキヤ當然ナリ

第四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト未成年者ノ後見ハ被後見人カ成年ニ達スルトキハ止ム然レトモ禁治産者ニ付テハ後見ノ止ムヘキ期間ヲ豫測スヘカラサルモノナリ然ルニ若シ徹頭徹尾辭任スルコトヲ得サルモノトスルトキハ後見人ノ責務過重ニ失スルノミラス往々倦怠放恣ニ流レ却テ幾多ノ弊害ヲ生スルコトアルヘシ故ニ十年ヲ以テ限度トシ之カ辭任ヲ許セリ然レトモ配偶者直系血族及戸主ノ如キハ特別ニ情愛深厚ナルヘク且之カ保護ヲ爲スヘキ地位ニアルモノナルヲ以テ十年以上ニ涉